

建友会誌

Annual alumni bulletin KENYU-KAISHI

2025

令和7. 1. 1発行 Vol.67

広大建友会事務局／
電話 (082-424-7838) 事務局長 西名大作
電話 (082-424-7834) 事務局理事 中園哲也
739-8527 東広島市鏡山1-4-1 / 広島大学建築学教室内
郵便振替口座番号 / 広島01390-2-6208
広島銀行西条支店 / 普通442989

会 告

令和7年度広大建友会総会（大阪）並びに懇親会のお知らせ

寄 稿

会長挨拶…………… 会長 長光信治
広島大学建築グループの近況報告…………… 西名大作
老骨に鞭打って、まだ頑張っています！ …… 大久保孝昭
退職のご挨拶…………… 中村尚弘
異動後のご挨拶…………… 鍋島国彦
学生生活について…………… 八木田詩織
広島平和祈念卒業設計展2024の報告…………… 谷 卓思

大学での研究内容…………… 西名大作
学会旅費援助学生の発表論文一覧…………… 西名大作
2024年度建築学会大会（関東・明治大学）に参加して：
計画系…………… 網島雄真
2024年度建築学会大会（関東・明治大学）に参加して：
構造系…………… 竹内翔紀
新任理事自己紹介…………… （72回卒）森本 匠

住所録掲載可否についてのお願い

個人情報保護法の施行に伴い、住所及び勤務先届けに、各項目の建友会誌への掲載の可否を問う欄を新たに設けましたので、忘れずに、ご記入願います。尚、ご記入のない場合には、可と判断し、掲載いたしますので、予め、ご承知おき願います。

会費納入のお願い

建友会は会員各位の会費によって運営されています。是非とも会費の納入をお願い申し上げます。10年以上に渡って会費を滞納した場合には、本会誌が
発送されなくなりますので、ご注意願います。年会費は2,000円です。

目 次

1. 会 告

□ 令和7年度広大建友会総会（大阪）並びに懇親会のお知らせ …	1
□ 建友会誌表紙デザインの募集 ……………	2
□ 令和6年度広大建友会総会（広島）並びに懇親会の報告 ………	3
□ 令和6年度理事会の報告 ……………	4
□ 理事等の交代 ……………	7
□ 新終身会員・名誉会員 ……………	8
□ 慶弔のお知らせ ……………	9
□ 令和6年11月15日現在の会員数 ……………	9
□ 令和5年度事業並びに会計報告 ……………	10
□ 令和6年度事業並びに会計中間報告 ……………	11
□ 令和7年度事業並びに予算計画（案）……………	12
□ 広告掲載ご協力をお願い ……………	13
□ 会費の自動引き落としご協力のお願い ……………	14

2. 寄 稿

□ 会長挨拶 ……………（34回卒）建友会会長 長光信治…	15
□ 広島大学建築グループの近況報告 ……………建築グループ主任 西名大作…	16
□ 老骨に鞭打って、まだ頑張っています！ ……………大久保孝昭…	19
□ 退職のご挨拶 ……………中村尚弘…	20
□ 異動後のご挨拶 ……………鍋島国彦…	24
□ 学生生活について ……………建築プログラム3年 八木田詩織…	25
□ 広島平和祈念卒業設計展2024の報告 ……（72回卒）谷 卓思…	26
□ 大学での研究内容 ……………（31回卒）西名大作…	28
□ 学会旅費援助学生の発表論文一覧 ……………（31回卒）西名大作…	38
□ 2024年度建築学会大会（関東・明治大学）に参加して：計画系 ……………（72回卒）綱島雄真…	58
□ 2024年度建築学会大会（関東・明治大学）に参加して：構造系 ……………（71回卒）竹内翔紀…	59
□ 新任理事自己紹介 ……………（72回卒）森本 匠…	61

3. 同窓生近況	
□ 卒業後の近況について	(71回卒) 下竹雅也… 62
4. 役員・参与会員名簿.....	63
5. 学部新卒業生会員名簿.....	68
6. 大学院新修了生会員名簿.....	73
7. 広大建友会規約.....	77
8. 編集後記.....	(31回卒) 事務局長 西名大作… 80
	(43回卒) 事務局理事 中藺哲也… 80
	(47回卒) 事務局理事 高田 宏… 81
	(63回卒) 事務局理事 田村将太… 81
9. 広告案内.....	82

□ 令和7年度広大建友会総会（大阪）並びに懇親会のお知らせ

1. 日 時 令和7年1月31日（金） 18:00～21:00
2. 場 所 道頓堀ホテル
〒542-0071 大阪市中央区道頓堀 2-3-25
〔TEL〕 06-6213-3444
〔URL〕 <https://dotonbori-h.co.jp/>
3. 総 会 18:00～18:30
令和6年度事業報告ならびに会計報告
令和7年度事業計画ならびに予算計画
その他
4. 懇 親 会 18:30～21:00
5. 会 費 7,000円
6. 招待先生 荒木秀夫先生
7. 連 絡 先 大阪支部長 湯谷孝夫（26回）
yutani@kansai-firesafety.co.jp
8. アクセス 最寄駅 OsakaMetro 御堂筋線なんば駅徒歩3分



建友会誌表紙デザインの募集

デザイン募集	「建友会誌 Vol.68」(2026年1月発行)の表紙デザインを募集します。		
募集期間	応募締切 2025年10月31日 事務局必着		
応募資格	広大建友会会員又は広島大学建築グループ在学生 ※なお、応募は1名あるいは1グループについて2作品までとする。		
賞	●最優秀賞(1点) 2万円 ※建友会誌の表紙に採用されます。 ●優秀賞(数点) 5千円 ●佳作(数点) 1千円		
募集内容	【課題】 広大建友会誌の表紙デザイン 過去のサンプルを参考に表紙をデザインしてください。ただし、点線で囲まれる文字の情報は事務局で作成するため、変更できないものとします(ダミーの文字を入力してデザインしてください) 【提出物】 表紙面1枚(サイズA5版)のハードコピーまたはそのpdfファイル、および説明文(数行程度でよい) ハードコピーは返却しないので、必要な場合はあらかじめ複製を保管しておいてください。Adobe®Illustrator®等の電子データの場合は1M byte以下のpdfファイルに変換して提出してください。  2022年 Vol.64  2023年 Vol.65  2024年 Vol.66		
申込方法	①氏名 ②所属(学年) ③連絡先住所 を明記の上、下記の連絡先に作品をお寄せください。		
連絡先	〒739-8527 東広島市鏡山1-4-1 広島大学大学院先進理工系科学研究科 建築環境学 西名 大作(宛) Tel/Fax 082-424-7838、E-mail nishina@hiroshima-u.ac.jp		
審査員	広大建友会事務局、広大建築グループ教員		
審査結果	審査の結果は応募者に通知するとともに、最優秀賞は『建友会誌 Vol.68』2026年1月発行の表紙に採用され、入賞者は建友会誌に掲載されます。		

皆様からの斬新な作品をおまちしております

□ 令和 6 年度 広島建友会総会（広島）並びに懇親会の報告

日 時：令和 6 年 2 月 2 日（金）18：30～21：00

場 所：広島ガーデンパレス

1. 総 会

西名事務局長（31回）の司会のもとに、長光会長（34回）の挨拶の後、議長に長光会長、副議長に井筒広島支部長（27回）を選出し議事に入った。議事

- (1) 西名事務局長より令和 5 年度事業並びに会計報告について説明があった。引き続き、松尾彰会計監査役（18回）による令和 5 年度会計監査の結果、相違ないことを確認したという旨の報告が行われ、令和 5 年度事業及び会計は承認された。
- (2) 中菌事務局理事（43回）より令和 5 年度理事会報告が行われた。
- (3) 西名事務局長より、1・2・7・9 回理事が現状不在のため、自薦・他薦を問わず推薦のお願いがあった。また、新任理事についての紹介があり承認された。
- (4) 西名事務局長より令和 6 年度事業並びに予算計画について説明があり、原案通り承認された。
- (5) その他の議題として会員から、理事の定年制に関する提案や、名簿の建友会誌掲載と管理外部委託の是非を問う時期や方法に関する質問があった。

2. 懇親会

総会終了後19：00から、昨年度の東京での総会に引き続き対面で懇親会が行われた。井筒支部長の司会のもとで長光会長の挨拶の後、上田会員（5回）と本間会員（5回）の挨拶と乾杯によりスタートした。和やかに歓談が行われる中、招待先生としてお招きした荒木先生（26回）と清田先生（27回）から近況報告をお話し頂いた。その後、多くの会員からも近況報告などの興味深いお話を頂いた。最後に、司会から指名された中島会員（35回）による中締め挨拶と一本絞めをもって、盛会のうちに終会した。

今回は、井筒支部長をはじめ広島支部会員の方々のご尽力のおかげで中堅・若手会員の参加も多数あり、とても活気のある盛大な懇親会となった。

3. 出席者

- 招待先生 2 名／荒木先生（26回）、清田先生（27回）
- 建友会会員48名

□ 令和 6 年度理事会の報告

日 時：令和 6 年10月 4 日（金）18：00～20：20

場 所：RCC 文化センター 7F 702会議室

出席者：

○ 各期理事

08渡邊 健、11灰山彰好、12平田弘明、13高洲純士、14村元聰夫、
18松尾 彰、19高松隆夫、26河原直己、30柴田安章、31西名大作、
33中城秀典、34長光信治、35中島崇秀、39井上和博、47高田 宏、
54光井周平、71柴田健斗

○ 事務局理事

中藺哲也（43回）、田村将太（63回）

○ 広島支部長

井筒俊樹（27回）

事務局長（西名事務局理事31回）の司会で開会し、はじめに長光会長より
ご挨拶いただいた。議長に長光会長、副議長に井筒広島支部長を選出し、議
事に移った。

議 事：

1. 理事等の交代について西名事務局長から報告があり、承認された。
 - ・ 2 回、5 回、7 回、9 回の理事が決定していないため、候補者がいれば推薦いただきたい旨が報告された。
 - ・ 新任理事の就任（森本匠会員（72回））
2. 令和 5 年度事業並びに会計報告が西名事務局長よりなされ、資料のとおり確認した（令和 5 年度総会で承認済み）。
3. 令和 6 年度事業並びに会計中間報告が西名事務局長よりなされ、資料のとおり承認された。
4. 令和 7 年度事業並びに予算計画（案）の説明が西名事務局長よりなされ、資料のとおり承認された。
 - ・ 支出（会誌印刷・郵送80万円）は、10月からの郵送費の値上りをふまえ、予算を増額した上で総会に諮ることを承認した。
5. 建友会誌について

- 1) 目次構成案について中藺理事より説明があり、資料のとおり承認された。
 - ・会告、寄稿については例年通りの内容である。
 - ・名簿は、新規会員のみの掲載となる。
 - 2) 同窓生近況執筆者について高田理事より説明があり、資料のとおり承認された。
 - ・71回、67回、63回、59回、55回、51回、47回の各理事に人選を依頼する。
 - 3) 広告関係について光井理事より掲載状況の説明の後、掲載協力の依頼があった。
6. 令和7年度建友会総会（大阪）について
- 河原理事より以下の説明があり、承認された。
- ・開催日時：2025年1月31日（金）
総 会18：00～18：30、懇親会18：30～21：00
 - ・場 所：道頓堀ホテル
7. 建友会および建友会誌の運営管理について
- 1) 建友会誌の名簿掲載

田村理事より、建友会誌の名簿掲載について以下の説明があった。

 - ・現在の問題点（①多大な財政負担、②人的リソースの不足、③名簿の信頼性・必要性の低下、個人情報保護）から、名簿発行、管理業務の外部委託を検討している。
 - ・外部委託の利点として、①財政負担の軽減、②人的負担の軽減、③名簿の信頼性の向上が挙げられる。

光井理事より、外部委託企業の概要の説明、個人情報保護への取り組み、費用（建友会からの費用の持ち出しはない。名簿販売、広告掲載収入、名簿作成協力金収入が企業の利益となる）について説明があった。

名簿発行、管理業務について、外部委託することが承認された。
 - 2) 建友会事務局の体制について

田村理事より、事務局の体制について以下の説明があった。

 - ・現在の問題点（①多大な財政負担、②人的リソースの不足、③建友会誌の返送が増加傾向）から、HP（ホームページ）の作成と事務員雇用について検討している。
 - ・HP作成の費用は、会誌発行・発送の約50%である。建友会誌をPDFでHPに掲載（バックナンバーも掲載）可能。

- ・事務員の雇用は、週1回程度の雇用で、収入に対して支出が超えないことが大前提となる。

HPを作成する方向で進めること、また事務員の雇用について具体的に検討を進めることが承認された。

会議終了後、理事への慰労を兼ねて懇親会が開催された。



理事会の様子



懇親会の様子

□ 理事等の交代

○ 各期理事の交代

- ・ 1 回 甫出 為彦→人選中
- ・ 2 回 安藤清治郎→人選中
- ・ 6 回 尾崎 和夫→人選中
- ・ 7 回 中野 幹也→人選中
- ・ 9 回 幸原 實→人選中
- ・ 22回 久次 初樹→人選中

○ 新任各期理事

- ・ 72回（令和 6 年 3 月卒）…森本 匠（広島大学大学院）

□ 新終身会員・名誉会員

平成16年度の総会において建友会規約が次のように改められました。

建友会規約第11条

第 11 条 入会後40年以上を経過し、かつこの間を含め50年分の年会費を完納した正会員を、終身会員とする。また、本会の目的達成に顕著な貢献をした終身会員もしくは年会費10年分以上の寄付を行った終身会員には、理事会の推薦により、名誉会員の称号を贈る。終身会員、名誉会員の会費は、これを免除する。

この規約に則り、新たに終身会員になられた方を紹介いたします。尚、名簿中では、お名前の左側の記号が○印の方が終身会員、◎の方が名誉会員です。

・新終身会員

第13回 小林 守

第20回 岡田 幸雄

第23回 迫垣内 裕、田中 博治

第28回 春日井幸治

以上 5名

☐ 慶弔のお知らせ

☐ 会員訃報

安藤清治郎（2回）	令和5年9月14日	没
尾崎 和夫（6回）	令和6年1月3日	没
藤田 義勝（14回）	令和4年	没
井上 隆（19回）	令和6年11月4日	没

☐ 令和6年11月15日現在の会員数

学部卒業時入会者……………	3143名
修士修了時入会者……………	5名
博前修了時入会者……………	160名
博後修了時入会者……………	62名
合計	3370名（内逝去者 187名）

□ 令和5年度事業並びに会計報告

○ 令和5年度事業報告

- 1) 令和5年1月1日 建友会誌 Vol.65発行
- 2) 1月28日 総会の開催
- 3) 3月1日 広島平和祈念卒計展の後援
- 4) 3月23日 建友会誌表紙コンテスト表彰
- 5) 9月13日 学生の学会出席旅費の援助
- 6) 9月26日 理事会の開催

○ 令和5年度会計報告 (R5.1.1~R5.12.31)

令和5年12月31日締

収 入		支 出	
前年度繰越金	4,361,498	会誌印刷・郵送	859,100
会費・入会金	1,610,000*	総会補助	250,000
・振替振込分	305,000*	卒業設計展補助	50,000
・自動引落分	268,000	学生旅費援助	235,000
・現金徴収分	0*	卒業証書ホルダー	54,900
・新卒者分	938,000*	同期会通信費補助	0
・総会徴収分	99,000	表紙コンテスト賞金	60,825*
預金利子	29*	慶弔費	0
広告料	120,000*	理事会費	119,100*
寄付金	0	会長裁量経費	0*
		文具・通信費・謝金	51,084*
		・会費徴収費	25,795*
		・謝金	0
		・通信費	22,577*
		・文具・雑貨費	2,712
		次年度繰越金	4,411,518*
総 計	6,091,527*	総 計	6,091,527*

日高 卓三 (12回) により監査済み (2024/01/27)

(単位: 円)

松尾 彰 (18回) により監査済み (2024/01/27)

* 印は建友会誌 Vol.66と異なる部分

□ 令和 6 年度事業並びに会計中間報告

○ 令和 6 年度事業中間報告

- 1) 令和 6 年 1 月 1 日 建友会誌 Vol.66 発行
- 2) 2 月 2 日 総会の開催
- 3) 2 月 29 日 広島平和祈念卒計展の後援
- 4) 3 月 23 日 建友会誌表紙コンテスト表彰
- 5) 3 月 23 日 大久保先生退官記念事業の補助
- 6) 3 月 23 日 中村先生退官記念事業の補助
- 7) 8 月 27 日 学生の学会出席旅費の援助
- 8) 8 月 31 日 広島大学 75 + 75 周年記念事業への補助
- 9) 9 月 26 日 理事会の開催

○ 令和 6 年度会計中間報告 (R6. 1. 1~R6. 10. 4)

令和 6 年 10 月 4 日現在

収	入	支	出
前年度繰越金	4,411,518	会誌印刷・郵送	1,837,353
会費・入会金	1,681,000*	総会補助	40,000
・振替振込分	348,000*	卒業設計展補助	50,000
・自動引落分	232,000	学生旅費援助	285,000
・現金徴収分	0*	卒業証書ホルダー	65,880
・新卒者分	990,000	同期会通信費補助	0*
・総会徴収分	111,000	表紙コンテスト賞金	34,000
預金利子	378	慶弔費	0*
広告料	100,000	理事会費	78,100
寄付金	0	大久保先生退官記念	50,000
		中村先生退官記念	50,000
		会長裁量経費	50,000*
		文具・通信費・謝金	48,470*
		・会費徴収費	26,070*
		・謝金	0*
		・通信費	15,356*
		・文具・雑貨費	7,044*
		次年度繰越金	3,604,093*
総計	6,192,896*	総計	6,192,896*

* 印は 10 月 4 日段階では未確定

(単位: 円)

□ 令和 7 年度事業並びに予算計画（案）

○ 令和 7 年度事業計画（案）

- 1) 建友会誌 Vol.67発行
- 2) 会費の督促
- 3) 卒業設計展の後援
- 4) 学生の学会出席旅費の補助
- 5) 同期会通信費の援助
- 6) 建友会誌表紙コンテストの開催
- 7) 総会・懇親会の開催
- 8) 在学生の教育・研究に対する援助
- 9) 慶弔

○ 令和 7 年度予算計画（案）

収 入		支 出	
前年度繰越金	3,604,093*	会誌印刷・郵送	900,000
会費・入会金	1,800,000	総会補助	150,000
預金利子	400	卒業設計展補助	50,000
広告料	100,000	学生旅費援助	300,000
		卒業証書ホルダー	70,000
		同期会通信費補助	10,000
		表紙コンテスト賞金	30,000
		慶弔費	50,000
		理事会費	100,000
		会長裁量経費	200,000
		文具・通信費・謝金	100,000
		次年度繰越金	3,544,493*
総 計	5,504,493*	総 計	5,504,493*

*印は10月 4 日段階では未確定

(単位：円)

□ 広告掲載ご協力をお願い

広告掲載状況の推移

今回の広大建友会誌の広告掲載に2件のご協力をいただくことができました。広告掲載にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。一方で、建友会誌への広告掲載は近年低迷傾向にあり、次回以降についても予断を許さない状況です。広告料の減少は逼迫する本会の財政を更に悪化させる要因となっており、早急なる改善が望まれます。

広告掲載方法

1ページ全面広告に加えて、1/2ページと1/4ページサイズの広告を募集しております。掲載料金は以下の通りです。

1ページ広告（A5サイズ）	50,000円
1/2ページ広告（名刺2枚分）	30,000円
1/4ページ広告（名刺1枚分）	20,000円

危機的な広告掲載状況を打破するため、有望な広告掲載依頼先をご紹介しますよう、会員各位にお願い申し上げます。広告掲載に関するお問い合わせは下記の担当者までご連絡ください。

担当 光井周平（54回・広島工業大学 環境学部 建築デザイン学科）
電話／FAX（082）921-5413
E-mail s.mitsui.hu@cc.it-hiroshima.ac.jp

追記 本会会員の皆様、特に各期理事並びに諸先輩の皆様の一層のご協力なしには事態の改善は毛頭望めません。何とぞ強力なご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

□ 会費自動引き落としご協力のお願い

建友会は、会員の皆様からの会費によって運営されています。毎年、年会費の納入にご協力いただき誠にありがとうございます。

建友会費は、振込用紙による支払いも可能ですが、手数料のかからない口座からの自動引き落としのご利用をおすすめしています。お手持ちの金融機関（ほぼすべての都市銀行、地方銀行、信用組合、信用金庫、郵便局）の口座から自動引き落としでお支払いいただけます。

現在、建友会への会費支払いの方法のほとんどが郵便局での支払いです。しかし、この方法では、会員の皆様方それぞれに郵便局まで出向いていただかなければなりませんし、会費の他に手数料をお支払いいただかなければなりません。また、「支払うつもりはあるのだけれども、つい忘れてしまった。」とおっしゃる会員の方も少なくありません。

自動引き落としにしていいただければ、会員の皆様に郵便局までわざわざ出向いていただくことはありませんし、払い忘れもありません。また、自動引き落としの場合の手数料は建友会が負担することになりますので、手数料を支払うこともありません。会員の皆様に、是非、この会費支払い方法を選択されることをお願い申し上げる次第です。

ご希望の方は、下記までお問い合わせいただければ、口座引き落としの申請用紙をお送りいたします。この申請用紙に必要事項をご記入いただき、ご返送いただければ、次年度から、会費支払いに伴う様々な不便や煩わしさから解放されます。是非、ご活用 of 程よろしくお願いいたします。

既に自動引き落としを希望され、申請用紙をご記入・返送いただいていない会員の皆様へお願いです。お手元に広島建友会事務局からお送りした申請用紙をお持ちでしょうか。もし申請用紙を紛失してしまった場合は、再度ご連絡いただければ、申請用紙を再送いたしますので、ご連絡の程よろしくお願いいたします。

・自動引き落としの申込み、および、申請用紙の返送先

〒731-5193 広島市佐伯区三宅 2-1-1

広島工業大学 環境学部 建築デザイン学科

高田 宏（広島建友会事務局 会費自動引き落とし担当）

TEL：082-921-9104 FAX：082-921-8979

e-mail：h.takata.h5@it-hiroshima.ac.jp

2. 寄稿

□ 会長挨拶



(34回) 建友会会長 長 光 信 治
皆様方には日頃から広大建友会の活動にご理解とご協力を頂き心より感謝申し上げます。建友会誌の発行にあたり一言ご挨拶させていただきます。

まず最初に、僭越ながら私の近況をご報告させていただきます。私の方、大学を卒業して36年間勤務した広島市役所を令和5年度末で退職し、現在、広島地下街開発(株)代表取締役社長として、紙屋町シャレオの管理運営の仕事をさせていただいています。

ご承知のとおり、シャレオにおきましては、特に西通りに空き区画が多く、その解消がシャレオの活性化や賑わいの創出、さらには経営基盤の安定化に向けた重要かつ喫緊の課題となっています。こうした課題の解決に向け、社員一丸となって取り組んでいるところではありますが、シャレオ近辺にお越しの際には、シャレオでの飲食や買い物をお楽しみいただければ幸いです。

さて、昨今の建築業界に目を向けてみますと、人材不足や資材の高騰、働き方改革、環境規制の厳格化など様々な課題に直面し、大きな転換期を迎えているものと認識しております。各事業者等におかれましては、DX化による業務の効率化、労働環境の改善、多様な人材の採用による新たな視点や技術の導入などの取組を積極的に進めておられるものと思います。

このように時代の変化への迅速な対応が求められる中、建友会の会員が、恩師、先輩、同僚、後輩の世代や立場を越えて、相互の連携や交流、情報交換を図ることは、それぞれの業績面において、また、一個人としての日常をより豊かなものにしていく意味においても、これまで以上にその意義や必要性が増してきているものと考えています。

私自身、大変微力ではありますが、多くの先輩方のご指導を賜りながら、建友会活動の益々の活性化に向け、少しでも貢献できればと考えておりますので、皆様方におかれましては引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、令和7年度建友会総会が大阪で開催（令和7年1月31日（金））されますが、是非多くの皆様にご参加いただき、楽しく有意義な交流機会となりますことを願っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

□ 広島大学建築グループの近況報告



2024年度建築グループ主任 西 名 大 作
広大建友会会員の皆様、お元気でしょうか？

令和6年度の建築学プログラム長、建築グループ主任を務めております西名です。建築グループ、並びに、広島大学の近況についてご報告させていただきます。

1. 教員の異動

まずは人事関係の話題ですが、定年でお辞めになりました、建築材料科学研究室の大久保孝昭教授の後任として、これまで建築構造力学研究室で、准教授として教鞭をとってこられた森拓郎先生が、令和6年4月1日より昇格されると共に、研究室を移られることとなりました。近年、導入事例が増加している木質材料について、これまでも強度や材質など様々な観点からご研究を進めておられますが、今後はより一層幅広く取り組んでいかれることと存じます。

また、同じく定年でお辞めになりました、建築防災学研究室の中村尚弘教授の後任として、これまで同研究室で准教授を務めておられました三浦弘之先生が、同じく令和6年4月1日より昇格されました。三浦先生は地震防災にAIを取り入れた新たな分野を開拓されており、能登半島地震における衛星画像解析による建物倒壊率の算定結果は、広く全国紙の紙面でも取り上げられています。

森先生が務めておられた建築構造力学研究室内の准教授には、これまで建築構造学研究室で助教を務めておられた陳星辰先生が、令和6年11月1日より昇格され、研究室を移られることとなりました。陳先生は中国の西南交通大学との研究交流も進められており、これまでの鋼構造分野での蓄積も活かした新たな建築構造力学研究室内の確立に注力いただけるものと期待しています。

2. 学生の就職状況

まず学部学生ですが、建築学専攻から先進理工系科学研究科建築学プログラムに移行したことにより、近年、大学院進学率がますます高まっています。令和7年3月卒業生51名のうち、就職は12名のみで8割近くが進学予定です。進学先の多くは本学ですが、東京大学や東北大学、東京科学大学（東京工業大学と東京医科歯科大学が統合された新大学）などの学生もみら

れ、より高みを目指す学生が現れていることから、本学においても学生にとって魅力のある研究生生活が送れるように、私共教員もますますの努力の必要性を感じるところです。

大学院修了生のほとんどは就職で、最多はゼネコンですが、その内訳を見てみますと設備職や構造設計、技術センターなどが増えており、施工管理は減少の一途をたどっています。また、最近は組織設計事務所を選ぶ学生も増加しており、学生の現場嫌いの傾向が顕著です。いずれのゼネコンも作業環境の改善や、作業時間の短縮に尽力されているはずですが、そのような改革の現況が学生にはまだまだ伝わっていないのではないかと思います。

3. 学生の活動成果について

昨年の建友会誌 Vol.66で、田中貴宏先生が紹介された「広大中央口交通結節点」と同様に、学生デザインが現実のものとなった「ココテラス」が、令和6年3月末に、晴れてオープンの運びとなりました。ココテラスとは、工学部管理棟入口付近の老朽化した薄暗い空間を、コベルコ建機株式会社のネーミングライツ取得に合わせて再整備したもので、田中先生の大学院講義の課題として、複数グループから提出された設計案の中から選ばれたものです。これまではただ通り過ぎるだけだった空間に、新しく交流の場が設けられました。お近くにお寄りの際には是非、その心地よさを体験してもらえればと思います。

また、日本建築学会建築文化週間学生グランプリ「銀茶会の茶席」において、令和4年度に引き続き、5年度も最優秀賞を受賞できました。本来は、建友会誌 Vol.66でご報告すべきところ、ご連絡が遅くなりまして申し訳ありません。他にも令和6年度タジマ奨励賞の受賞など、最近の設計コンペや設計競技での学生の活躍には目を見張るものがあります。このような状況もあって、アトリエ系建築設計事務所を就職先として目指す学生も、増えつつあります。

4. 広島大学創立75+75周年記念事業について

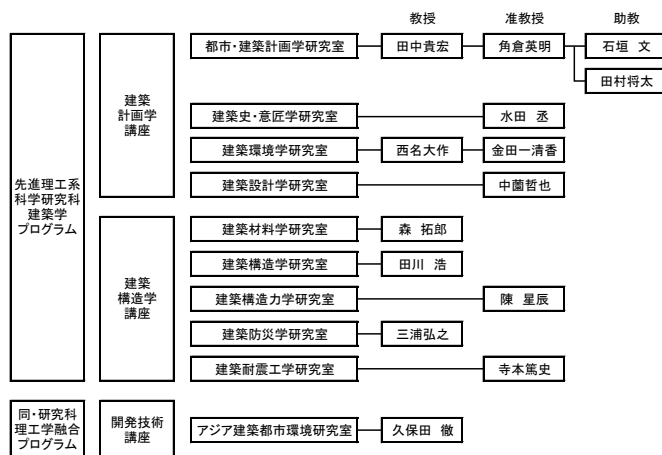
2024年は新制広島大学が誕生した1949年から75周年にあたり、また、さらにその75年前の1874年に本学の最も古い前身校であるところの白鳥学校が開学したとのことで、創立75+75周年を記念して、多くの行事が開催されました。広島大学のシンボルであるフェニックスのマスコットが描かれたラッピング電車をご覧になった方も少なくないのではないのでしょうか？

これに合わせて建築グループでも2024年は幾つか記念行事を開催することにしました。8月31日には、折り鶴タワーを設計された三分一博志先生による記念講演を開催する予定でしたが、残念ながら台風の接近によって延期に

追い込まれ、12月21日に改めての開催を予定しています。また、前述した「銀茶会の茶席」の最優秀作品の実物を、ホームカミングデーに合わせて展示する予定でしたが、これも季節外れの豪雨に阻まれ、2日間の開催が11月3日のみとなりました。このように天候に振り回されはしましたが、記念講演については、きっと多くの皆様にご来場いただけるのではないかと期待しています。

5. ホームページ HUAG について

HUAG とは、Hiroshima University Architecture Group の略称であり、令和6年にリニューアルした建築グループの新たなホームページのタイトルでもあります。拙稿で私が報告させていただいた内容の多くは、このホームページをご参照いただければより詳細に、また、よりタイムリーにおわかりいただけることと存じます。広島大学の建築グループの今を知る手段として、是非、ご活用ください。URL は <https://huag.hiroshima-u.ac.jp> ですが、「広島大学」「HUAG」で検索いただければ、容易にたどり着くことができると思います。



建築グループの教員構成



ココテラス



銀茶会の茶席（実際の使用状況）

□ 老骨に鞭打って、まだ頑張っています！

元建築材料科学研究室・教授（広島大学名誉教授） 大久保 孝 昭

建友会の皆様、こんにちは。私は2024年3月末日をもって、広島大学を定年退職いたしました。2004年桜満開の春に広島大学に着任してから丁度20年間、楽しい日々を東広島キャンパスで過ごさせていただきました。学生の皆さんや先生方との充実した思い出を語ると、恐らく直木賞にもチャレンジできるほどの超大作となることは間違いありません。ここではご多忙の皆様方に、簡潔ですが感謝の思いを込めてご挨拶させていただきます。

この20年間で、私にとって「増えたもの」と「減ったもの」を右表に示します。いろんなものを少しずつ失い、余計なものも増やしてきましたが、この表には示していない最も大きなものが増えました。それは「**広島大学への愛**」です。今や私は広島大学が母校と思うほど愛情を持っており、私が講義を担当した卒業生の皆様への愛情も並々ならぬものがあることを断言致します。

増えたもの	減ったもの
白髪	髪の毛
体重	酒量
物忘れ	記憶力
諦め	根気
思い出	将来の夢
カーブ愛	タイガース愛

現在、私は広島市内の安田女子大学で建築教育に当たっています。この春に建築学科を新設する大学で、今は生活デザイン学科で女子大生相手に建築構造分野の講義を担当しており、元気であれば70歳を過ぎても建築学科で老骨に鞭を打ち続ける予定です。西条に自宅を残したまま、安佐南区にアパートを借りてアストラムラインで通勤し、この歳で新生活をちょっと楽しみ、少し苦しみながら頑張っています。卒業生の皆様も楽しいことばかりではないかと思いますが、お互い、幸せに向かって頑張りましょう！

私の最終講義に集まってくれた研究室 OB・OG の皆さんとの集合写真を添えて退職のご挨拶を閉めさせていただきます。建友会会員の皆様の幸せを心から祈りつつ、皆様とまたお目にかかれる日を楽しみにしています。



□ 退職のご挨拶



原子力規制庁技術参与 中 村 尚 弘

本年3月まで建築防災学研究室の教授をしており
ました、中村尚弘です。このたび、「退職の挨拶」
の寄稿依頼をいただきましたので、私の近況や思う
ことなど、書かせていただきます。

現在の立場

原子力規制委員会の下にある原子力規制庁の技術
参与となりました。ここは、原子力発電所の再稼働
等の許認可を行うための組織です。最近では敦賀原
発2号機の再稼働を認めないという判定をして、新聞でも話題となりました。ここは、実際に許認可を行う規制部と、技術基盤グループに分かれており、私は後者に所属しています。再稼働の許認可の判断は、技術的な裏付けがないとできませんから、この部署はその技術力を保有し高めることを目的としています。

私はそこで、嘱託という立場で週3日勤務しています。私の役割は正規職員のサポートをすることです。私は広島大学に着任する前は、建設会社の竹中工務店に30年以上在職していましたが、そのほとんどの期間で原子力発電所の耐震解析に関与していました。その知識が今、とても役立っています。

それと同時に、兼務で広島大学の研究員にいただきました。科研費があと1年残っているのも、その間は研究員として在職できるというルールだそうです。私は広島大学の教授として8年在職しました。私が着任した後に、名誉教授になる条件が在職8年から10年に変わりましたので、私は名誉教授にはなれず、元教授になりました。

私はもう少し研究もしたいので、引き続き科研費に応募しようと思っていましたが、広島大学では元教授では科研費の申請ができないようなので、今年度は応募ができませんでした。来年度はこの申請を認めてくれる他の大学に移る予定で、そこが原子力規制庁と兼務になります。なので、来年の3月で広島大学からは籍が無くなります。

職場環境

原子力規制庁の勤務地は都心の六本木一丁目で、現在日本最高高さの建物である麻布台ヒルズのすぐそばです。このあたりは、超高層のオフィスビル

が林立しており、草深い？東広島から来た当初は別世界と感じました。昨年度までは、アパートから大学まで車で15分の通勤でしたが、今の通勤は、ラッシュの地下鉄に30分乗るのでやはり疲れます。勤務は火水木の週3回ですが、このうちの1日を自宅勤務のテレワークとしています。なので、実際の通勤は週2日です。この他に金曜日は、自宅で広島大学の研究生としての時間に当てています。

具体的な業務は、部署で行っている自主研究や外部に委託している研究のアドバイスをすることです。そのため委託先の大手ゼネコンの研究者と会うことが多いです。今年、兵庫県にEアイソレーションという免震装置の実大実験装置が日本で初めて設置されました。ゼネコンの若手技術者はぜひ見ておくべきだと考え、施設の方に見学をお願いをしました。ゼネコンの若手の人に見学の希望をきいたところ、19人も集まりました。今度彼らといっしょに見学に行ってきます。広島大学にいたときも、構造系の院生を集めて、バスで実大建物の振動試験を行う施設Eディフェンスに見学に行ったりしていました。今もそれと同じようなことをしています。

学会活動

日本建築学会の減衰小委員会（正式名は、建築物の減衰機構とその特性評価小委員会）の主査も10年目となりましたので、来年は若い人に交代します。主査の最後の仕事として11月12日に減衰のシンポジウム「建築物の減衰と振動—新たな知見、残された課題」を開催しました。たいへんありがたいことに200名以上が参加していただき、たいへんな盛況でした。建築物の減衰はライフワークのつもりなので、この分野の研究を引き続きやっていきたいと思っています。同学会ではその他に、「荷重指針」の改訂版と、「レジリエンスに着目した構造設計の考え方」と題する新しい書籍の共著をしており、いずれも来年か再来年には出版される予定です。

また、この9月からLLM（Large Language Model＝大規模言語モデル：Chat GPTなどの生成AIのベースとなるモデル）が、建築構造分野に及ぼす影響を検討するワークグループの主査となりました。本学からは田川先生と陳先生にも入っていただきました。この技術は確実に社会を大きく変えますので、私達のかかわっている建築構造分野ではどのようなことがおこるのか、できるのか、わくわくしながら調査を進めています。

思うこと

このあいだ66歳になりました。統計によると男性は、85歳までに約半数が

亡くなり、90歳までには90%が亡くなるようですので、私も余命20年のつもりでいます。一方、Janetの法則によると、実感する時間の長さは年齢に反比例するとのことで、まさに最近はあるという間に1年が過ぎていきます。うかうかしていると、その20年もあるというまに終わってしまいそうなので、思い残すことの無いように過ごそうと心がけています。

うちの子供はまだ大学生なのですが、毎日、寝ているかゲームをしているかのどちらかじゃないか、と思うくらいだらだらとした生活をしています。しかしながら、私も大学生のころは同じくらいだらだらしていたな、と思い出しました。若いうちは時間がまだいくらでもあるので、好きなだけだらだらしてもいいけれど、私のように余生が短くなってきて初めて、残された時間を有効に使いたい、楽しいことややりたいことを全てやって後悔のないように終わりたい、と思うようになりました。今はまさに、「遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけん 遊ぶ子供の声聞けば わが身さへこそ揺るがるれ」(後白河院が編纂した今様集「梁塵秘抄」の一首)の気分です。

旅行や趣味

そこで行ってみたいと思っていたけれどまだ行ったことのなかった場所、例えば、奈良の山の辺の道(飛鳥時代からある日本最古の道)や纏向遺跡(邪馬台国の時代にたぶん国内最大だった都市)、京都嵐山の竹林やトロッコ列車、関東の近場では、江ノ島と鎌倉(40年も東京にいたのに一度も行っていなかった)、横須賀の海上自衛隊の基地(護衛艦いずもに乗ってきました)などに出かけています。

また帝国劇場や日生劇場でのコンサートやミュージカル、国立競技場のサッカーの試合(私はなでしこジャパンを応援しています)、東京ドームのプロ野球(巨人-広島線)、秩父宮ラグビー場での大学対抗戦、代々木競技場でのバスケの試合など、東京はいくらでも楽しいイベントがあります。また、東京の各区が主催する格安のクラシックコンサートにも良く行きます。各区はそれぞれ月1、2回の頻度ですが、東京は区が23もあるので、そのうち近場のいくつか絞っても、コンサートは多数あります。また格安でも、出演者は東京芸大OBなどなので十分満足しています。

スポーツ

25年前に子供ができたときに行きにくくなってやめたゴルフを再開しました。また永年の望みだったスキューバダイビングも体験コースに行ってみま

した。しかし、体力が極めて落ちており、楽しむところではない状態であることがよくわかりました。

そこでこの秋から、「手軽にちょこっと運動」がうたい文句のチョコザップに入りました。会費も月3000円程度と格安でしたので。これまでも何回かスポーツジムに入ったことはありました。いずれの場所も運動着に着替え、がっつり汗をかいて運動するイメージで、1回行くとなかなか疲れるので、次は1週間後、というような状況でした。

これに対してチョコザップでは、小さなスペース（店舗というそうです）で、着替えないそのままの服装で、汗をかかない軽めの運動を少しやるという新しい発想と思います。値段が安いのは、基本的にコーチや管理人がいない無人店舗だからなので、そこも斬新と思います。都内には店舗が何十か所もあるので、通勤の帰りや自宅のそばの店舗に、今はほとんど毎日行っています。どこの店舗にもマッサージチェアがあります。よく大型スーパーに置いてあって、1回200円くらいの機種と同程度のマシンが、月会費だけで使えます。私はこれが大好きなのでまずこれをやって、後は5分～10分くらい軽めのマシン運動をするだけです。

それでも、これまではほとんど運動をしていなかったもので、これだけでもずいぶん体調は良好になりました。ずっと続けていきたいと思っています。

以上、ほとんど雑感という感じですが、私の近況報告でした。



麻布台ヒルズから見た東京タワー



オフィス周辺の高層ビル群

□ 異動後のご挨拶

神戸大学大学院工学研究科建築学専攻助教 鍋 島 国 彦



神戸大学大学院工学研究科建築学専攻助教の鍋島国彦と申します（元広島大学大学院先進理工系科学研究科）。現職に着任してから1年後のご挨拶となり、大変恐縮です。月日が経つのは早いもので、異動してからもうすぐで2年になります。異動当初は新天地ということで緊張しておりましたが、気さくな先生が多くて割と直ぐに馴染めたかな、と感じています。広島大学在職時も含め、改めて、周りの先生方に恵まれたなと思っている次第です。

現職に着任してからというもの、新設構造系科目の創設や実施を担うこととなったり、新たな小委員会活動や民間企業との共同研究が始まったりと、（幸いなことに？）忙しくさせて頂いております。顔馴染みの先生が近畿地方に多くいらっしゃったので、その都合もあるのかもしれませんが、「何処を拠点にするか」という言葉を、かつて恩師からいただきましたが、最近になってそのニュアンスを実感し始めている次第です。また、私はテニユアトラック制度で雇われているため、パーマネント獲得に向けて様々な業績を積む必要があるのですが、現状の負荷はトータルで見ると良い方向に働いていて、楽しく過ごせてます（欲を言えば担当授業をもっと減らして欲しいのですが）。ただ土木の先生との交流が殆どないので、その点が少し残念です。

広島大学と神戸大学とで直ぐ違いを感じたのは、教員（建築学科）の多さでした。学生の数が一学年で100名弱いるので、体感で広島大学の1.5～2倍くらい人数確保されている気がします。もう一つ相違点を感じたのは、構造系における女学生の多さです。多い所だと、一研究室で7、8名くらい在籍してます。私の印象だと、多くの女学生は構造系を毛嫌いしているイメージがあったのですが、本学ではそんな事は無い？ようです。ところで、学生さんに話を聞いてみると徒歩通学が割と多いようです。本学最寄り駅から大学までの道のりは、ずっと坂で傾斜角度も大きいので、徒歩は割と大変な筈なのですが。神戸大生の足腰の強さはその辺の大学と比にならない？かもしれません。私も見習わなければなりません。

拙い内容ですが、以上をもって異動後の簡単なお挨拶とさせていただきます。また学会活動等でお会いする機会が出てくるかと思います。その際は、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

□ 学生生活について

建築プログラム3年 八木田 詩 織



建築プログラム3年の八木田詩織と申します。今回は、私が広島大学に入学してからの約2年半の学生生活についてお話しさせていただきたいと思います。

2022年4月、新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せつつも、まだ世の中では原則マスク着用が求められている状況の中、私は入学を迎えました。入学当初は教養教育科目が多かったこともあり、対面授業とオンライン授業が同じくらいの割合で開講されていました。そのため対面の授業で学部友達を作ることができ、課外活動では女子ラクロス部に所属したことで、順調に大学生活をスタートすることができたと思います。しかし、未だに新型コロナウイルス感染症の制限を受けることも多く、部活内で感染者が出たことで、初めての試合になるはずだった夏休みの新人大会の棄権を余儀なくされることとなり、悔しい経験もしました。

2年生になって建築プログラムに配属されてからは、専門科目の授業が増え、ほぼすべての授業が対面で行われるようになりました。名前に「建築」と付く授業が増えていき、1年生から学んできたことを土台として、内容が徐々に実践的になっていくことが楽しかったのを覚えています。設計製図の授業では2年生の後期から自分で設計をするようになり、夜遅くまで製図室で作業したり、アイデアが浮かばずに悩んだり、楽しいことばかりではなかったですが、課題をやり切ったときの達成感は格別でした。同じ学科の同期と共に、製図室で作品を作り上げる過程は、私の学生生活を語る上で欠かすことのできない場面の一つです。また、部活動では2年生の時にラクロス部が創設されてから初めてとなる中四国制覇を達成し、全国大会を経験しました。先日今シーズンのリーグ戦が終了し、自分たちが一番上の学年となって部活を引っ張っていく立場になりました。再び全国大会の舞台に立つことを目標にして、学業はもちろんですが、部活動にも全力を注いでいきたいです。

来年度からはいよいよ研究室に配属されます。これまで以上に一生懸命勉学に励みながら、残りの大学生活を楽しみたいです。これにて終わりとさせていただきます。最後までお読みいただきありがとうございます。

□ 広島平和祈念卒業設計展2024の報告

72回 谷 卓 思



2024年2月29日から3月2日までの3日間に渡り「広島平和祈念卒業設計展2024」が開催されました。広島は原子爆弾による破壊と消滅を受けた辛く厳しい時代を経験してきましたが、平和を祈念する都市として人類の未来への希望を繋げています。2024年、ウクライナとロシアの戦争が続き、社会全体に不安や混乱が広がる中、日本国内でも自然災害が地域社会に大きな影響を与えました。その中でも、2024年に発生した能登半島地震は、多くの人々に深い衝撃を与えました。地震により多くの家屋が被害を受け、地域住民は困難な生活を強いられました。

このような自然災害は、戦争とは異なる形で人々の生活を脅かし、私たちに災害への備えやコミュニティの強さ、そして平和な日常の尊さを再認識させます。能登半島地震の復興の過程で、多くのボランティアや市民が協力し合い、地域再生に向けた取り組みが進んでいます。この現実、困難な状況下での助け合いや共生の重要性を強く示しています。

このような状況に置かれた今こそ、日本中で、そして平和都市広島で、多世代が平和について深く考えるべきではないでしょうか。本卒業設計展は、建築学を学んだ学生が建築設計という領域でも、広島が未来に向けて平和を創造し続ける都市であることを、建築空間や都市空間を通して、市民や建築を学ぶ学生などに広く伝えることを目的として企画されたものです。

広島平和祈念卒業設計展（旧：広島8大学卒業設計展）は当初4つの大学から始まり、現在では広島の枠を超えて主体である8大学といくつかの招待校を交え、大きな設計展へと成長を続けています。さらに2000年からは「広島平和祈念卒業設計賞」の授与、2009年からは作品集の発行、2010年からは外部から招待した建築家による公開審査会の開催等、年々内容を充実させていきました。審査員には手塚由比氏、長坂常氏、原浩二氏、百田有希氏など、世界で活躍する著名な建築家の皆様に歴任していただいております。

卒業設計は、自らの問題設定した敷地を決め、設計していくという今までの設計課題から一歩踏み出した課題です。学生生活最後の設計であるからこそ、作品に対する気持ちは計り知れないものがあります。製作者の思想が反映された作品を審査員含め多くの方に見ていただくことで、新たな課題や思

考のきっかけになっていきます。

今年度の作品展示は、平和祈念卒業設計展という名前にふさわしく、広島に現存する被爆建物である旧日本銀行広島支店にて行うことができました。

本年度からは7大学の学生で運営を行うという意識をさらに高めていくために運営体制を大きく変更いたしました。そのことによって苦難も増えましたが、学生同士での交流が増え、学びの多い大会になったのではないかと思います。

また、今年度も「広島平和祈念卒業設計展」が「広島平和祈念卒業設計賞作品集2024」なる書籍として出版されています。広島大学の学生の活動を全国の方々へ知ってもらうきっかけでもあり、卒業設計展という一時的なものではなく、私たちの取り組みがひとつの形として残ることに非常に大きな意味を感じています。

今後の卒業設計展に関しては、来年度の後輩に引き継ぎを行っています。来年度の展覧会は、我々の反省点を踏まえ、より素晴らしい卒業設計展となるよう期待しています。

最後になりましたが、本卒業設計展の開催にあたりご指導くださった、中菌先生をはじめ各大学の顧問の先生方、ご協賛をいただきました地元企業の皆さま、そして本卒業設計展の趣旨にご賛同いただき、開催当初から支援金を援助していただいた広島建友会に厚く御礼申し上げます。この卒業設計展は様々な方々によって支えられていることを実感しております。今後とも邁進していける卒業設計展としていきますので、ご理解とご支援のほど よろしくお願い申し上げます。末筆ながら広島建友会と広島平和祈念卒業設計展の益々の発展を願いまして終わりの言葉とさせていただきます。



実行委員会集合写真

□ 大学での研究内容

31回 西 名 大 作

広島大学建築グループにおける令和5年度の卒業論文・卒業設計、修士論文、博士論文の題目の一覧を以下に掲載します。なお、名前の下の（ ）内の日付は卒業、修了の年月日を示しており、日付のない場合は2024年3月23日になります。

令和5年度広島大学工学部

建築プログラム 卒業論文・卒業設計題目

建築材料学

(指導教員)

- | | | |
|-------|--|-----|
| 田中 夕渚 | センサを活用した建築物の維持管理の高度化に関する基礎的研究 | 大久保 |
| 神田 駿太 | 外壁仕上りモルタルの仕様が下地との接着一体性に及ぼす影響に関する研究 | 大久保 |
| 西村 紀彦 | RC外壁に生じた貫通ひび割れ補修仕様の劣化外力に対する耐久性評価に関する研究 | 大久保 |
| 森 颯矢 | 実構造物における外装タイルの自動剥離検知技術に関する基礎的研究 | 大久保 |

建築構造力学

- | | | |
|-------|--------------------------------------|---|
| 梶谷 嶺衣 | 広葉樹7樹種を用いた密度・道管配置が支圧性能に与える影響 | 森 |
| 定金 侑里 | 集成材の材料長さ・密度・樹種の違いによる内部含水率の変化と膨潤収縮の関係 | 森 |
| 畑地健太郎 | 製材を用いたトラスの設計に資するメタルプレートコネクター接合部の性能評価 | 森 |
| 曾我部敬太 | ラグスクリュールボルトのねじ形状が繊維直交方向引抜き性能に与える影響 | 森 |

建築構造学

- | | | |
|-------|-----------------------------|----|
| 竹内 理子 | レバーアームを有する制振システムへのU形ダンパーの適用 | 田川 |
|-------|-----------------------------|----|

森 祐真	オイルダンパーを用いたローラー制振システムの振動台実験	田川
西本 達郎	心棒架構の偏心配置が鋼構造骨組の地震応答に及ぼす影響	田川
熊谷 広光	粘性ダンパーを用いたシーソーアーム制振システムを適用した鋼構造骨組の地震応答解析	田川

建築防災学

長谷川拓人	中高層RC建物の固有周期と減衰定数に関する研究	中村
西條 菜摘	時系列写真による木材のひび割れの自動検出技術の開発	三浦
小山 翔聖	地震後の地上写真を用いた深層学習による建物被害判別に関する研究	三浦
時重 健実	微動計測に基づく地盤と建物の地震危険度指標に関する研究	三浦
増田 幸樹	人工衛星SAR画像を用いた土砂崩壊箇所の検出に関する研究	三浦

建築耐震工学

日本 睦実	コンクリートの促進劣化が微生物群集に及ぼす影響	寺本
澁田 知樹	天井に環状汚れが生じる条件と抑制方法に関する研究	寺本
高橋 功督	浴室建材上の液相条件が微生物の増殖に及ぼす影響に関する研究	寺本
北村 咲乃	コンクリートに生じる収縮ひび割れがCO ₂ 固定量に及ぼす影響に関する研究	寺本

建築環境学

長田 想	学生の交流活動を促す大学内屋外空間の環境条件に関する研究	西名
大森 勇輝	樹木と建物の配置関係を考慮した河川景観における開放性・複雑性に関する心理評価予測モデルに関する研究	西名

宇野隆之介	空き店舗の多寡が商店街全体の視覚的印象に及ぼす影響に関する研究	西名
森分 斗環	VR観光体験内容の相違が観光地の心理的評価に及ぼす影響に関する研究 —耕三寺博物館を対象として—	西名
岩吉 翔平	きのご菌床栽培への地中熱換気導入によるエネルギー削減効果	金田一
星 一誠	地中熱ヒートポンプシステムにおける熱源水制御による搬送動力低減効果に関する研究	金田一
田中 杏樹	PCM熱交換器の適用による空調効率改善効果に関する研究	金田一

都市・建築計画学

萬家 隆介	地方都市における中心市街地の昼間人口集積と市街地特性の関連分析 —中心市街地活性化の方策提案に向けて—	田中
秋山 結衣	広島県における人口変動の地理的分布の実態とその要因に関する研究 —鉄道駅と小学校の影響に着目して—	田中
前垣 灯里	機能による「小さな拠点」の類型化と各類型の利用実態に関する研究 —中山間地域における適材適所の「小さな拠点」の提案に向けて—	田中
森本 匠	地域社会環境を考慮したグリーンインフラの戦略的導入に向けたシナリオ分析 —洪水抑制効果に着目して—	田中
杉本 晴太	広島デルタ市街地を対象とした緑化の熱環境改善効果に関する研究 —将来の気候変動の影響を考慮したシナリオ分析—	田中
濱野 喜史	DIYerの技術・技能習得におけるホームセンターの役割に関する研究	角倉
藤田 一樹	膜建築の生産に関する基礎的研究 —テント倉庫に着目して—	角倉

東山 公美	農業用ハウスの生産に関する基礎的研究 —構成要素と生産体制に着目して—	角倉
-------	--	----

建築史・意匠学

釜谷咲木乃	「広島城下絵屏風」に描かれた町家の平面構成に関する研究	水田
吉田 奈央	広島市安佐北区小河原町 福岡家住宅に関する研究	水田
長野 竜大	「広島城下絵屏風」に描かれた町家の表構えに関する研究	水田
小野 由樹	広島市安佐北区可部 立川家住宅に関する研究	水田

国際協力研究科開発科学

アジア・建築都市環境

川尻 数馬	インド・カラグプルにおける住宅内の温熱環境と生活行動に関する長期実測	久保田
西田 健吾	インド北部主要都市の低所得者層における生活の質と世帯エネルギー消費量に影響を及ぼす要因の分析	久保田
嶋 颯斗	鉛直ヴォイドによる中廊下型集合住宅内の換気性能に関する実測：トレーサーガス法による流入量の考察	久保田
高田 悠作	インドネシアの集合住宅居住者の生活行動パターンと世帯エネルギー消費量との関係	久保田

卒論・卒計（上段が卒業論文、下段が卒業設計）

綱島 雄真	工務店による木造住宅の性能向上に関する研究 —耐震・断熱性能等級に着目して— 地域住民の居場所 —運動×農業×食でつくる交流拠点—	角倉
竹熊 樹	広島県における畳生産に関する基礎的研究 —製造のラインと工程に着目して— 「オリドコロ」—畳文化を次世代へ—	角倉
松岡 達哉	温暖地における牛舎の意匠と環境性能に関する研究—熊本県草地畜産研究所を対象として—	中蘭

		牛と暮らせば —耕作放棄地を用いた牛と人との原風景の再構築—	
隠崎	嶺	戦後広島第一世代の建築家 田中清の設計手法に 関する研究 —住宅作品における平面構成に着目して— 眠る海に拓く —海上遺構を守りゆく慰霊公園の提案—	中藺

卒業設計

佐藤	更彩	暮らしのてづくり —戸建て住宅団地の解体と再生—	角倉
濱崎	礼葉	こどもネスト —地域にこどもホスピスを重ねる—	角倉
伊藤	光介	空寺—東白川村における寺院再興計画—	角倉
谷	卓思	天泣で紡ぐ—遊緑民による砂漠緑化の提案—	中藺
塚村	遼也	世界に小さな幸せの結晶を広げるソルトロード —世界航路・巨大船寄港場・巨大船の提案—	中藺

令和5年度広島大学大学院博士課程前期 学位論文題目

先進理工系科学研究科 建築学プログラム（構造系）		（主査）	（副査）
矢野	紘基	外装仕上材の接着一体性における耐久性 及び評価指標の向上に関する研究	大久保 寺本 三浦 小川
坂田	康介	建築外壁の剥離診断の高度化に資する打音 解析・ひずみモニタリング技術の確立に関 する研究	大久保 寺本 三浦 小川
中山	雄貴	建築物の維持管理におけるセンサ技術の活 用に関する研究	大久保 寺本 森 半井
安武	伶樹	RC外壁に生じた貫通ひび割れの各種補修 仕様の補修効果の持続性評価に関する研究	大久保 寺本 森 半井

高橋 竜大	プレストレスによる初期張力がCLTロッキング壁の耐震性能に及ぼす影響	森	田川 中村 半井
西宮 航	CLT-RC 複合床の固定端支持条件における長期性能評価	森	大久保 寺本 有尾
花岡 慶汰	L形鋼部材により補強された柱梁接合部における柱弱軸側梁の接合に関する研究	田川	陳 森 有尾
森山佐那子	鋼製スリットダンパーを用いたレバーアームを有する制振システム	田川	陳 寺本 畠
北岡 陽太	特定階の実測データに基づく地盤建物連成系地震応答解析モデルの同定に関する検討	中村	三浦 森 鍋島
谷崎 巧朗	地形量と植生情報を用いた機械学習による土砂崩壊発生危険度の評価	三浦	中村 作野
村田 雄亮	建物被害や損害額の早期推計のためのリモートセンシング画像への深層学習の適用に関する研究	三浦	森 大久保 畠
橋本 裕輝	建物被害関数と土石流シミュレーションによる建物被害予測に関する研究	三浦	中村 森 畠
田邊 百花	乾燥を受ける塗装仕上げコンクリート中の湿度分布と水和反応に関する研究	寺本	大久保 森 河合
島田 修弥	コンクリート構造物の二酸化炭素固定量に及ぼす塗装の影響に関する研究	寺本	大久保 河合
松崎 雅俊	多孔質骨材量および空隙径の制御による調湿性材料の開発に関する研究	寺本	大久保 田川 河合

先進理工系科学研究科 建築学プログラム（計画系）

千葉由莉杏 (2023.9.20)	住民評価に基づく地方都市の景観ゾーニング手法に関する研究 —東広島市を対象としたゾーン別対策指針の提案に向けて—	田中	中藺 井上
----------------------	---	----	----------

METTATAM UMPIKA

(2023.9.20)	Study on the Relationship between Air Temperature Distribution and Physical Environment Factors in the Densely Built-up Area of Bangkok: For Making Urban Thermal Environmental Design Strategy in the Tropical Region	田中	西名 内田
沈 子楡 (2023.9.20)	アルゴリズムを用いた古民家の設計手法に関する研究	中藺	田中 角倉 塚井
廣中 文都	周辺住民における水辺のオープンカフェに対する印象や行動に利用動機が及ぼす影響	西名	金田一 田中 日比野
山下 蓮	大学キャンパスにおける学生の交流に適した屋外空間に関する研究	西名	金田一 水田 日比野
古田 壮汰	地方中小都市における商店街固有の雰囲気と好ましさに関する研究	西名	金田一 田中 日比野
松浦 靖晃	実空間との比較からみたVR空間における観光体験の評価・行動特性に関する研究	西名	金田一 田中 中下
青山 享平	直膨式対流・放射併用空調システムの性能評価に関する研究	金田一	西名 田中 中下
田中 透弥	ロバスト型熱源水蓄熱システムを適用した地中熱源ビルマルチの省エネルギー効果	金田一	西名 田中 内田

黄	鴻章	潜熱蓄熱材を用いた直膨式放射空調システムの室内温熱環境に関する研究	金田一	西名 田中 内田
大石	大将	大学施設における建物間熱融通による空調—給湯エネルギー削減に関する研究	金田一	西名 田中 井上
橋本	凌弥	冷暖兼用潜熱蓄熱システムにおける年間エネルギー性能に関する研究	金田一	西名 田中 井上
前田	丞	夏季の適切なパッシブクーリングを目的とした都市気候ゾーニングに関する研究	田中	田村 西名 大橋
山本	友樹	地方中核都市における人々の「滞在」「体験」とエリア特性の関連性に関する研究—「都市の価値」の可視化を目的として—	田中	田村 中藺 大橋
荒木	良太	文化的サービスを考慮したグリーンインフラ計画シナリオの作成とその洪水抑制効果に関する研究—住民意向を考慮したグリーンインフラのあり方提案に向けて—	田中	田村 金田一 尾崎
城本	大暉	中山間地域の地区活動を担う組織と人の実態とその持続性実現に向けた方策提案—広島県安芸高田市を対象として—	田中	田村 西名 尾崎
若槻	瑠実	過疎地域における木造住宅生産の担い手に関する研究—広島県大崎上島を対象として—	角倉	石垣 中藺 金田一(智)
佐々木	友子	共同住宅の内装部材における木材利用に関する研究—仕様の変遷とその要因に着目して—	角倉	石垣 中藺 金田一(智)
大呂	直樹	広島県呉市街地周辺における煉瓦塀の意匠とその分布に関する研究	中藺	角倉 森 塚井
山本	千結	建築家 今中敏幸の設計手法に関する研究—カフェインテリアの寸法計画と意匠に着目して—	中藺	角倉 水田 塚井

山田 誠人	茅葺き屋根補修における民間支援の課題と費用に関する研究 —東広島市志和堀を対象として—	中藺 田中 角倉 布施
井上 龍也	CFD解析を用いた仮設コンテナハウスの温熱環境に関する研究	中藺 西名 角倉 布施

先進理工系科学研究科 理工学融合プログラム

BUXTON ELIZABETH ANNE

Factors Affecting Quality of Life and Energy Consumption in Low-Income Settlements in Delhi 久保田 李
西名

令和5年度広島大学大学院博士課程後期 学位論文題目

先進理工系科学研究科 建築学プログラム

(主査)

李 雨彤 Evaluation of Crack Repair Effectiveness and Thermal Insulation Performance in the Envelope for Enhanced Building Durability 大久保
(2023.9.20)

茂木 良宏 大規模3次元弾塑性骨組解析に適した減衰モデルに関する研究 中村
(2023.9.20)

東城 峻樹 大型振動台実験に基づく建築構造物の振動特性評価法に関する研究 中村
(2023.9.20)

SHUAI FENG

(2024.2.28) Study on Seesaw-twisting System with Cylindrical Steel Slit Damper for Vibration Control of Steel Buildings 田川

TARNRAWEE NGAMSIRIUDOM

(2024.2.28) Guidelines for Urban Land Use Planning in the Central Business District of Bangkok from the viewpoint of Urban Heat Island Mitigation 田中

張 思晋 角形鋼管を外管に用いた複数の丸鋼芯材による座屈拘束ブレースに関する研究 田川

太田 成 因果性に基づく減衰モデルの3次元有限要素モデルによるRC非線形地震応答解析への適用に関する研究 中村

先進理工系科学研究科 理工学融合プログラム

HANIEF ARIEFMAN SANI

(2023.9.20) Study on Indoor Air Quality and Its Effect on Health in Urban Houses of Indonesia 久保田

□ 学会旅費援助学生の発表論文一覧

31回 西 名 大 作

建友会では、大学院在学生の皆さんが学会に参加され、論文発表される場合、些少ですが旅費を補助しております。大学での研究内容を卒業生の皆さんにお伝えすることかねて、補助を受けられた学生の皆さん72名の発表論文をご紹介します。以下では、研究室ごとに日本建築学会大会学術講演梗概集の分冊、ページ数に従って整理しております。筆頭著者で名前にアンダーラインのある方が補助対象者になります。なお、明治大学を会場として開催された令和6年度日本建築学会大会の様子は、参加された学生さんによるご寄稿をご一読下さい。

建築材料学：8名

題目：一般流通製材を活用した木造トラスの開発

その3 メタルプレートコネクタ接合の性能評価

著者：畑地健太郎、森 拓郎、大橋 修、新井里佳、松尾和午、井上 涼、瀧野敦夫、田中 圭

掲載：構造Ⅲ22127、pp.253-254

概要：メタルプレートコネクタによって接合された製材を用いた木造屋根トラス開発のため、実設計に資する基本的性能の把握を目的として様々な角度での接合部実験を実施した。その結果の評価と、材料性能との関係について報告した。

題目：CLTを用いたTimber-Concrete複合床における木部への水分移動に関する研究

その2 打設後1年経過時までの木材含水率変動と外部環境の影響

著者：江夏裕太郎、森 拓郎、車田慎介、谷口 翼

掲載：構造Ⅲ22131、pp.261-262

概要：TCCにおけるコンクリート打設後のコンクリートからCLTへの水分移動による含水率変動の把握と、接合部の防水処理方法の検討を目的とし、防水処理や金物接合部を有する試験体のCLT内部の含水率変動を計測した。その結果1年程度で木材の含水率がコンクリート打設前程度まで減少することを報告した。

題目：ラグスクリュールボルトのねじ形状が繊維直交方向引抜き性能に与える

影響

著者：曾我部敬太、田川麗歩、森 拓郎、小谷竜城、中谷 誠

掲載：構造Ⅲ22207、pp.413-414

概要：ラグスクリーボルト（LSB）のねじ形状が繊維直交方向引抜き性能に与える影響の検討を目的とし、ねじ径とねじピッチをパラメータとして LSB 引抜き試験を実施した。ねじピッチによるねじ山と接触する木部のせん断高さの差による影響が大きいことを確認した。

題目：CLT の積層方向に埋めこんだ LSB 引抜き性能

著者：田川麗歩、森 拓郎、小谷竜城、中谷 誠

掲載：構造Ⅲ22208、pp.415-416

概要：高強度・高剛性を有する LSB 接合部の設計方法は集成材を対象としてまとめられているが、建築物の木材使用量増大の観点から CLT への活用も期待されている。本研究では、CLT を床や屋根材として用いた場合の CLT 積層方向に埋め込んだ LSB 引抜き性能を明らかにするため引抜き試験を実施し、その結果を報告した。

題目：スギ集成材の材料長さ・密度の違いによる内部含水率の変化と膨潤収縮の関係

著者：定金侑里、山形海斗、森 拓郎

掲載：構造Ⅲ22292、pp.583-584

概要：木質材料の健全性評価の手法として、含水率の変化を用いることを考え、集成材にセンサーを埋め込み、含水率を計測し、含水率の変化と距離の関係を調べた。その結果、材料長さが長いほど部材中央部の含水率変化速度が遅くなった。

題目：広葉樹 7 樹種における密度・道管配置・余長が支圧及び全面圧縮性能に与える影響

著者：梶谷嶺衣、田川麗歩、森 拓郎

掲載：構造Ⅲ22298、pp.595-596

概要：広葉樹において、密度や道管配置が支圧性能に与える影響について実験的に明らかとした。その結果、支圧強度と密度には正の相関がみられ、道管配置による比較では環孔材が散孔材を上回る結果が得られた。

題目：電磁波伝播特性を用いた木造大壁躯体の含水率評価に関する研究
その2 試験体の水分傾斜による電磁波伝播特性への影響

著者：宇都宮佐太、森 拓郎、馬場 祐

掲載：構造Ⅲ22306、pp.611-612

概要：電磁波レーダを用いて、片面のみを濡らした試験体と均一に水分を含ませた試験体を陶板外壁越しに計測し、試験体の水分傾斜が電磁波伝播特性に与える影響について検討した。その結果、水分傾斜の影響がみられたことを報告した。

題目：材料試験方法を用いた木質構造柱梁接合部のせん断性能推定手法の提案

その1 材料試験方法の違いによるせん断性能の差異

著者：山形海斗、森 拓郎

掲載：構造Ⅲ22310、pp.619-620

概要：材料試験方法を用いて木質構造の柱梁接合部のせん断性能を推定する手法の提案を目的として、本講演では荷重の条件の異なる逆対称4点曲げ試験及び3点曲げ試験におけるせん断性能の差異を検証し、試験方法によるせん断弾性係数の差異について述べた。

建築構造学：4名

題目：オイルダンパーを用いたローラー制振システムに関する研究

その1 振動台実験

著者：森 祐真、竹内翔紀、張 思晋、陳 星辰、田川 浩、坂井 誠、
上原 誠、西村 真

掲載：構造Ⅱ21260、pp.519-520

概要：本研究ではローラーを用いることで断面が小さいブレースを使用できる制振システムを提案する。本報その1では、振動台実験を行い提案システムが良好に動作することを確認する。続いて汎用数値解析プログラムを用いて実験結果をシミュレートする。

題目：オイルダンパーを用いたローラー制振システムに関する研究

その2 実スケール実験

著者：竹内翔紀、森 祐真、張 思晋、陳 星辰、田川 浩、坂井 誠、
上原 誠、西村 真

掲載：構造Ⅱ21261、pp.521-522

概要：ローラー制振システムの制振性能を確認し、実建物への適用を検討するため、実スケール実験を行う。実験は振動台による一方向加振および二方向加振を行い、提案システムのダンパー挙動の分析をするとともに、面外方向加振の影響を確認する。

題目：粘性ダンパーを用いたシーソーアーム制振システムを適用した鋼構造骨組の地震応答解析

著者：熊谷広光、田川 浩、陳 星辰

掲載：構造Ⅲ22432、pp.863-864

概要：ブレースの圧縮力を抑制し、ダンパーの変位増幅率を向上させるシーソーアーム制振システムに、小さい荷重にも対応できる粘性ダンパーを用いている制振システムに関する研究である。提案システムを鋼構造骨組に適用し、地震応答解析を行い制振効果を確認する。

題目：心棒架構の偏心配置が鋼構造骨組の地震応答に及ぼす影響

著者：西本達郎、田川 浩、陳 星辰

掲載：構造Ⅲ22449、pp.897-898

概要：建築計画上、建物の中心に制震システム「心棒架構」を配置できない場合を想定する。そのとき、心棒架構の配置によって生じる偏心を考え、それが骨組にどのような影響を及ぼすのかを解析により明らかにする。

建築耐震工学：8名

題目：RC 構造物の美観性、耐久性と微生物群集構造の関係

その2 微生物群集構造に関する検討

著者：蔵富千奈、寺本篤史

掲載：材料施工1116、pp.231-232

概要：RC 構造物壁面およびセメント系サンプラー、空気サンプルに対してアンプリコンシーケンス分析を実施し、微生物群集構造を取得した。微生物群集構造は、試料の種類や採取地によって明確に異なる傾向が見られた。

題目：促進劣化により生じるコンクリート中の DNA 濃度の変化に関する研究

著者：日本睦実、蔵富千奈、中嶋麻起子、寺本篤史

掲載：材料施工1117、pp.233-234

概要：コンクリート中の微生物は、コンクリートの劣化により生息に影響を受けるのか検討した。同様に作製したコンクリート試験体に促進中性化試験、塩水浸せき、硫酸塩浸せきの促進劣化を施し、DNA 濃度を測定したところ、促進劣化を行ったコンクリート中では微生物の増殖が抑制されることが確認できた。

題目：中性化したコンクリートの CO₂固定量の評価手法に関する研究

その1 ドリル削孔による CO₂固定量の評価

著者：宮本健太郎、寺本篤史、丸山一平

掲載：材料施工1123、pp.345-246

概要：中性化コンクリートに対して、DNA 抽出およびハイスループットシーケンスを用いた微生物群集構造解析を適用した。その結果、コンクリート表層と内部では群集構造の傾向が異なり、表層では内部よりも多様な微生物群集構造が形成されていることが確認された。

題目：コンクリートに生じる炭酸化収縮ひび割れが透気係数に及ぼす影響に関する基礎的研究

著者：北村咲乃、寺本篤史、丸山一平

掲載：材料施工1212、pp.423-424

概要：本研究では、乾燥収縮と炭酸化収縮によるひび割れを分離定量し、炭酸化収縮ひび割れがコンクリートの透気係数に及ぼす影響について検討した。その結果、炭酸化により透気係数が上昇する結果が得られ、炭酸化収縮ひび割れが CO₂固定量推定に影響を及ぼすことが考えられた。

題目：半導体 pH センサを用いたセメント硬化体の pH 計測に関する基礎的研究

著者：谷口駿和、寺本篤史、西脇智哉

掲載：材料施工1313、pp.625-626

概要：本研究では半導体 pH センサを用いたコンクリートの中性化の評価を行うための基礎的な実験を行った。結果として、本センサを用いることで凝結後のセメントペーストの pH を測定可能であることが示された。

題目：浴室建材上の液相条件が微生物の増殖に及ぼす影響に関する研究
その1 浴室内汚れ成分が *Methylobacterium* 属の増殖に及ぼす影響

著者：高橋功督、寺本篤史

掲載：材料施工1475、pp.949-950

概要：本実験では、浴室内汚れ成分が *Methylobacterium* 属細菌の増殖に及ぼす影響を3つの方法で評価した。実験の結果、浴室内汚れ成分に対して広く資化性を示し、特に、皮膚や毛髪構成成分であるケラチンに対して高い資化性を示す傾向にあることが明らかとなった。

題目：タンパク質の機能を利用した機能性建築材料開発に関する基礎的研究

著者：保井裕介、寺本篤史

掲載：材料施工1478、pp.955-956

概要：本研究では、建築材料へのタンパク質の機能付与の初期検討として、GFP 遺伝子を発現させた大腸菌を用いて、しっくい及びせっこうへの蛍光機能付与を取り上げた。その結果、いずれの材料においても蛍光機能が確認され、材料の pH が機能に影響していることが示唆された。

題目：天井ボードの環状汚れに関する基礎的研究

著者：澁田知樹、寺本篤史

掲載：材料施工1485、pp.969-970

概要：本実験は天井に生じる環状汚れの発生条件を特定するため、コーヒールリング効果に着目し、再現実験を行った。結果、ボード上で液滴が留まる時間が重要であり、ボードの吸水性能が大きく影響し、また微生物が環状汚れの美観低下に影響している可能性が示された。

建築環境学：17名

題目：都市周辺部における散在する建築が農村環境の視覚的印象に及ぼす影響に関する研究

その1 農地景観を対象とする視線方向選択実験

著者：孫 膺淇、西名大作、侯 寧、金田一清香、姜 叡

掲載：環境工学40036、pp.71-72

概要：本報は、都市周辺の農地と転用された用地との混在により形成された新たな景観に対して、人々の心理的満足度の違いを明らかにし、農地景観を観察する視線方向を把握すると共に、農地における建物割合の

違いが視線方向に及ぼす影響について明らかにする。

題目：水辺のオープンカフェに対する周辺住民の評価に関する研究
河川空間とオープンカフェの利用状況の違いによる比較

著者：堀場美帆、西名大作、姜 勸、金田一清香、廣中文都、唐 笑宇

掲載：環境工学40037、pp.73-74

概要：本報では、広島市の河川空間で展開される水辺のオープンカフェに対する周辺住民の評価を把握することを目的とし、河川空間とオープンカフェの利用状況により住民を分類し、各分類におけるオープンカフェに対する評価について検討した。

題目：空き店舗の多寡が商店街全体の視覚的印象に与える影響に関する研究
その1 空き店舗率と訪問意欲、視覚の評価の関連

著者：宇野隆之介、西名大作、金田一清香、姜 勸、簡 士杰、張 勤怡

掲載：環境工学40038、pp.75-76

概要：空き店舗の多寡が異なる16の商店街について、全天球画像を用いた心理評価実験を行った。その結果、空き店舗の多寡が訪問意欲や視覚的な印象評価に対して、特に大きな影響があることを明らかにした。

題目：空き店舗の活用状態が商店街の印象評価に及ぼす影響
その1 空き店舗の活用状態に対する印象評価

著者：張 勤怡、西名大作、金田一清香、姜 勸、簡 士杰、宇野隆之介

掲載：環境工学40039、pp.77-78

概要：近年、地方中小都市の多くの商店街で空き店舗が多くみられるが、一部の商店街では空き店舗のファサードや前面空間を活用している事例が認められる。本研究ではこれを「活用状態」と定義し、多くの商店街で採用されている5種類の活用状態について、どのような印象が抱かれるかを明らかにするため、画像を用いた印象評価実験を行った。

題目：不適切箇所の指摘手法に基づく設計におけるVRの活用と新たな教育ツールの提案

その3 建築経験の観点から設計内容に応じたVRの適用効果

著者：侯 寧、西名大作、西井俊稀、杉田 宗、金田一清香、姜 勸、高 煒萱、森分斗環

掲載：環境工学40049、pp.101-104

概要：本報は、「不適切な箇所を探索する」課題の遂行による評価方法を使用し、高学年と低学年との、建築設計教育における VR 技術の設計知識習得への適用効果を比較した。その結果、VR を取り入れる場合、低学年を対象とする方がより顕著な効果が得られる可能性が高いことを示した。

題目：不適切箇所の指摘手法に基づく設計における VR の活用と新たな教育ツールの提案

その4 3DCAD と VR の観察特性が発見状況に及ぼす影響

著者：西井俊稀、西名大作、侯 寧、杉田 宗、金田一清香、姜 勸、高 煒萱、森分斗環

掲載：環境工学40050、pp.105-108

概要：本報では、取得した視線データから実験中の被験者が 3DCAD と VR を使用して、不適切箇所を探索する際の観察特性を把握し、ツール間の違いを明らかにするとともに不適切箇所の発見状況との関連について検証した。

題目：被験者実験に基づいた VR 空間における観光行動特性に関する研究

その4 日本人と中国人の VR 観光体験における比較分析

著者：高 煒萱、西名大作、杉田 宗、金田一清香、陸 偉、金 華、姜 勸、侯 寧、松浦靖晃、森分斗環、西井俊稀

掲載：環境工学40054、pp.121-124

概要：本報告では、中国人を対象とした VR 観光実験について紹介し、日本人と中国人の VR 観光の比較を行い、両国の行動の違いや共通点を明らかにし、観光前後の心理評価の変化を把握した。

題目：被験者実験に基づいた VR 空間における観光行動特性に関する研究

その6 新たに作成した VR 空間の概要および実験結果

著者：森分斗環、西名大作、杉田 宗、金田一清香、高 煒萱、西井俊稀、侯 寧、松浦靖晃

掲載：環境工学40055、pp.125-128

概要：同じ観光地において体験内容が量的に異なる VR 空間を複数作成し、被験者にいずれかの VR 空間で観光体験を行ってもらう。各 VR 空間での観光体験に対する評価を比較検討することで、目的に応じた適切な VR 空間の作成を提案する。

題目：地方中小都市の商店街における店舗の業種と訪問意欲および満足度との関連性に関する研究

その2 業種認識の影響要因に関する分析

著者：簡 士杰、西名大作、金田一清香、張 勤怡、宇野隆之介

掲載：環境工学40070、pp.157-158

概要：中国地方の8箇所の商店街を対象に、被験者が業種判断の視覚情報とする外観要素を分類、定量化することにより、各商店街独自の外観特徴を把握した上で、業種認識に対する影響要因を明らかにした。

題目：大学キャンパスの屋外空間に対する日本人学生と留学生の意識・行動の比較

その1 日本人学生と留学生の空間条件の比較

著者：周 玥含、西名大作、金田一清香、姜 叡

掲載：環境工学40071、pp.159-160

概要：本報では、広島大学の4つの屋外空間における利用者に対する調査結果に基づいて、日本人学生と留学生の屋外滞在空間の利用状況を比較し、屋外滞在空間に求める条件の異同について明らかにした。

題目：日本のオフィスビルにおける熱的快適性の適応モデルの開発とメカニズムの解析

その25 広島地域のオフィスビルにおける CL & HT モード時の熱的快適感の検討

著者：中島 樹、西名大作、高田 宏、金田一清香、今川 光、宇野朋子、源城かほり、斎藤輝幸、都築和代、中谷岳史、長谷川兼一、森 太郎、リジャル H.B.

掲載：環境工学40318、pp.695-696

概要：地球環境にやさしく在室者が暑くも寒くもないと知覚する環境の実現に向け、日本のオフィスビルにおける適応モデルの導出と有効な運用に向けた基礎的知見の集積を目的とし、本報では CL & HT モードにおける執務者の熱的感覚を把握した。

題目：再エネ電力需給調整のための個別分散式蓄熱システムの有効性評価

その2 実験による蓄放熱特性

著者：江上風太、金田一清香、西名大作

掲載：環境工学40730、pp.1545-1546

概要：先行研究で想定した蓄熱システムを模擬した実験システムを構築し、熱源・流量・蓄熱時間を変更した計12ケースについて暖房時の蓄放熱実験を行った。今回の条件下では、小流量での運転が最も放熱 COP が高くなることが確認された。

題目：地中熱ヒートポンプシステムにおける熱源水制御改善による搬送動力低減効果の検討

著者：星 一誠、金田一清香、西名大作

掲載：環境工学40771、pp.1627-1628

概要：地中熱を利用した空調システムが導入されている建物の実測データ分析によりポンプ制御の課題を発見し、改善案を提案し、シミュレーションによりポンプの消費電力の77%削減の可能性を明らかにした。

題目：地中熱ヒートポンプシステムにおける熱源水蓄熱槽適用時のシステム性能に関する実験的検討

著者：水井駿貴、金田一清香、西名大作

掲載：環境工学40772、pp.1629-1630

概要：GSHP の熱源側に蓄熱槽を導入したシステムを模擬した実験システムを構築し、ポンプの連続運転時と間欠運転時の熱的挙動について考察した。実験結果より、システム全体の運転効率に基づいた地中熱ポンプの発停制御について精査した。

題目：戸建住宅におけるハイブリッド熱源ヒートポンプシステムの実現可能性に関する基礎研究

著者：竹信遙稀、崔 軍、金田一清香、西名大作

掲載：環境工学40775、pp.1635-1636

概要：地中埋設タンクを有するハイブリッド熱源ヒートポンプシステムの構築・シミュレーションを行うことで、地中熱利用の有効性に関して検討した。その結果、空気熱源と比較して、ハイブリッド熱源の方が4.7%消費電力量削減につながることが分かった。

題目：樹木と建物の配置関係を考慮した河川景観における開放性・複雑性に関する心理評価予測モデルに関する研究

その1 CG 画像を用いた被験者実験結果

著者：太森勇輝、西名大作、姜 叡、金田一清香、唐 笑宇

掲載：環境工学40915、pp.1963-1964

概要：都市河川の景観要素にどのような心理的影響があるかを把握するため、樹木と建物の配置パターンを設定したCG画像で心理評価実験を行い、複雑性と開放性の要因を分析した。その結果から、河川景観の心理評価予測の指標提案の指針を示した。

題目：樹木と建物の配置関係を考慮した河川景観における開放性・複雑性に関する心理評価予測モデルに関する研究

その2 都市空間指標の提案

著者：唐 笑宇、西名大作、姜 叡、金田一清香、大森勇輝

掲載：環境工学40916、pp.1965-1966

概要：本報は、都市河川景観の開放性と複雑性の説明に効果的と想定される都市空間指標を提案し、景観の心理評価の予測モデルを構築することを目的とする。心理評価との関連及び予測モデルの説明力について既往研究の指標と比較し、本報の指標の有効性を示した。

都市・建築計画学（指導教員：田中貴宏・田村将太）：13名

題目：緑道空間のニーズ調査に基づくまちづくりの検討

～小平グリーンロードを対象として～

著者：中川直人、伊丹弘美、和田浩一、樋口貴彦

掲載：環境工学40914、pp.1961-1962

概要：東京都小平市の地域資源である小平グリーンロードを対象として、地域活性化に資する小平GRの検討を行うことを目的に、より多くの人々が利用したいと思える緑道空間のニーズを明らかにした。その結果、緑道は人によって関心の有無が分かれること、利用方法に幅が広がる程、道への愛着が高くなっていくことが分かった。

題目：機能による「小さな拠点」の類型化と各類型の利用実態に関する研究
—中山間地域における適材適所の「小さな拠点」の提案に向けて—

著者：前垣灯里、森山大成、小沢啓太郎、田村将太、田中貴宏、塚井誠人

掲載：農村計画6069、pp.137-138

概要：広島県の用途地域を除く中山間地域を対象に抽出した小さな拠点を、機能を指標として類型化を行い、類型別に利用実態の把握を行った。その結果、類型別に昼間人口集積に差があることや昼間人口集積に影響する立地特性、求められる機能が明らかとなった。

題目：都市環境改善・減災を目的とした人口減少適応型グリーンインフラ計画に関する研究 その6

―地域社会環境を考慮したグリーンインフラの戦略的導入に向けたシナリオ分析―

著者：森本 匠、平井慎二、田村将太、田中貴宏、横山 真、松尾 薫、田中健太

掲載：都市計画7006、pp.11-12

概要：広島県呉市を対象に、地域社会環境を考慮して導入可能なグリーンインフラを導入した際の洪水抑制効果を把握した。その結果、中心市街地の駐車場から優先的にグリーンインフラ導入することが望ましいことが明らかになった。

題目：Study on the Physical and Socioeconomic Factors Influencing the Number of Vacant Houses in the City of Fortaleza, Brazil

著者：GUILHERME MONTE、田村将太、田中貴宏

掲載：都市計画7016、pp.31-32

概要：We investigated what explanatory variables were most related to the number of Vacant Houses in the city of Fortaleza, Brazil. As a result, we found that socioeconomic aspects, such as average tract price, and physical aspects, such as public lighting have great influence.

題目：人口減少・災害リスク適応に向けた土地利用変化の実態把握

―都市計画基礎調査の土地利用現況データを用いて―

著者：平井慎二、田村将太、田中貴宏

掲載：都市計画7143、pp.391-392

概要：広島県広島市を対象に、過去のデータを用いて土地利用変化を時系列に把握した。その結果、2017～2022年において土地利用変化が顕著であり、特に郊外部において農地転用による宅地開発が進んでいることが明らかとなった。

題目：広島県における人口変動の地理的分布の実態とその要因に関する研究 ―鉄道駅と小学校の影響に着目して―

著者：秋山結衣、重松大輝、小沢啓太郎、田村将太、田中貴宏

掲載：都市計画7147、pp.399-400

概要：広島県を対象に、人口増加エリアの地区特性を把握することを目的

に、駅周辺と中山間地域の小学校周辺に着目した。その結果、中心駅から近く、小学校が周辺に立地している駅周辺で人口増加し、施設集積度が低い地域で小学校の廃校が周辺の人口変動に与える影響が大きいたことが明らかとなった。

題目：地方都市における中心市街地の昼間人口集積と市街地特性の関連分析
—中心市街地活性化の方策提案に向けて—

著者：萬家隆介、小沢啓太郎、田村将太、田中貴宏、塚井誠人

掲載：都市計画7158、pp.421-422

概要：地方都市の中心市街地を対象に、昼間人口集積と市街地特性の関連を把握した。その結果、平日・休日で共通して、周辺人口密度、ショッピングセンター店舗面積、施設集積度が昼間人口密度に影響していることが示唆された。

題目：リノベーションスクール対象物件の立地状況に関する研究
—広島県呉市を対象として—

著者：重松大輝、小沢啓太郎、田村将太、田中貴宏

掲載：都市計画7191、pp.487-488

概要：広島県呉市を対象に、リノベーションスクール@呉の第1回から第4回までの対象物件を扱い、対象物件の立地状況と事業者の評価の把握を行った。その結果、対象物件の立地状況は、路線価・施設数・人流いずれも中心商店街より値が低い場所に立地していた。また、事業者評価から、中心から離れたエリアでも事業継続の可能性が見込めるものの課題もみられた。

題目：広島デルタ市街地を対象とした緑化の熱環境改善効果に関する研究
—将来の気候変動の影響を考慮したシナリオ分析—

著者：杉本晴太、忽那直哉、田村将太、田中貴宏、横山 真、松尾 薫、
杉山 徹

掲載：都市計画7391、pp.887-888

概要：広島市デルタ市街地を対象に、気候変動の下での将来における熱環境と緑化の効果を把握した。その結果、街区スケールの緑化で樹木の日陰等の効果により気候変動の影響を打ち消すほどの効果が期待されることが明らかになった。

題目：黒瀬川流域における都市化が洪水氾濫へもたらす影響に関する研究
—潜在自然植生シナリオとの比較を通して—

著者：森山大成、田村将太、田中貴宏

掲載：都市計画7403、pp.911-912

概要：黒瀬川流域を対象に、都市化による洪水氾濫量への影響を把握した。
その結果、都市化によって洪水氾濫量が増大していることが明らかになった一方で、土地利用の変更だけでは、洪水を完全に抑制することは難しいことも明らかになった。

題目：「札幌広福」の都心部におけるソーシャルメディアを用いた高評価飲食店の空間分布傾向の分析 その1

—高評価店集積エリアの抽出とエリア別特性分析—

著者：佐々木唯、小沢啓太郎、田村将太、田中貴宏、楠本正幸、早川 輝、竹中俊平

掲載：都市計画7462、pp.1029-1030

概要：札幌広福の都心部を対象として、食べログを用いて高評価の飲食店の集積クラスターを抽出し、各クラスターの飲食店の特性の分析を行った。その結果、高評価の飲食店であっても、各都市のエリアごとに立地する店舗の特性が異なる傾向がみられることが明らかになった。

題目：「札幌広福」の都心部におけるソーシャルメディアを用いた高評価飲食店の空間分布傾向の分析 その2

—高評価店集積エリアの類型化と類型別環境分析—

著者：小沢啓太郎、田村将太、田中貴宏、楠本正幸、早川 輝、竹中俊平

掲載：都市計画7463、pp.1031-1032

概要：札幌広福の都心部を対象とし、食べログによる高評価飲食店の集積エリアの類型化、および類型別の周辺環境特性を把握した。その結果、高評価店集積エリアは、立地する飲食店やその評価、利用者属性等の特性ごとに、周辺環境に特徴がみられることが明らかになった。

題目：夏季における歩行者の日陰選択傾向に関する研究

—広島都心部を対象とした歩行者分布と日陰分布の比較分析—

著者：忽那直哉、小沢啓太郎、田村将太、田中貴宏、松尾 薫

掲載：都市計画7487、pp.1079-1080

概要：広島市を対象に、日陰と歩行者の分布を重ね合わせることで、夏季に

おける歩行者の日陰選択傾向を明らかにした。その結果、日陰の多い狭幅員街路で夏に歩行者が多く、日陰を選択して行動していることが示唆された。

都市・建築計画学（指導教員：角倉英明・石垣 文）：16名

題目：RC外壁に生じた貫通ひび割れ補修仕様の劣化外力に対する耐久性評価に関する研究

著者：西村紀彦、角倉英明、李 雨彤、大久保孝昭、嵯峨浩二、川島康伸

掲載：材料施工1131、pp.261-262

概要：建築物の長寿命化が求められる現在、ひび割れの早急な修繕や補修は非常に重要である。最適なひび割れ補修方法を選定するためにはひび割れ挙動や補修材の耐久性について明らかにする必要がある。本稿では、各種劣化外力に対するひび割れの挙動や、補修仕様の耐久性の評価を行った。

題目：要養護児童向けホームの整備に関する研究

—先駆的事例の物件取得経緯に着目して—

著者：李 雨烟、加藤悠介、角倉英明、石垣 文

掲載：建築計画5181、pp.361-362

概要：本研究では、先駆事例を対象に、要養護児童向けホームの物件を取得する手順に関して、事業者、大家、関係者、不動産業者、建設業者の間の関係を明らかにし、物件取得方式のあり方を検討した上で、所有形態ごとにみるホーム整備の特徴を整理した。

題目：運営・建築特性と職員の困り感との関係に関する研究

一時保護所の施設環境と職員の困り感との関係 その2

著者：中野瑞希、石垣 文、大崎 元、角倉英明、阪東美智子

掲載：建築計画5184、pp.367-368

概要：一時保護所の施設環境について、アンケート調査により実態とそれに対する職員の困り感を尋ねた。調査の結果、施設間で実態の差は大きく、個別対応の室は新築施設においても課題が解消されていない現状が把握された。また入所定員や児童一人あたり職員数、建築年数と困り感との関係をみると、今後議論が必要だと考えられるテーマ毎で異なる傾向があった。

題目：膜建築の生産体制に関する基礎的研究—テント倉庫に着目して—

著者：藤田一樹、角倉英明、石垣 文

掲載：建築計画5595、pp.1189-1190

概要：本研究では膜建築を建築生産の視点から整理するために、膜建築の中でも身近なテント倉庫に着目し、その生産体制の実態を把握することを目的とした。調査の結果、膜事業者による自社一貫の生産体制が一般的であることや、膜材の加工・施工の技能育成が各事業者で行われていたことが分かった。

題目：農業用ハウスの生産に関する基礎的研究

構成要素と生産体制に着目して

著者：東山公美、石垣 文、角倉英明

掲載：建築計画5596、pp.1191-1192

概要：安定した農作物の生産のため、農業に用いられる建築が果たす役割が大きくなる一方で、それらに関する制度体系がいまだ確立されていない。本研究では、農業用ハウスを取り巻く現状の調査と異なる生産体制の特徴の分析から、農業用ハウスの生産の特色と課題を明らかにした。

題目：地域住宅生産者の家具同時提供に関する基礎的研究

—家具製造・開発メーカーとの連携に着目して—

著者：茶川裕弥、石垣 文、角倉英明

掲載：建築計画5634、pp.1267-1268

概要：地域住宅生産者の取り組みとして、注文住宅と同時にビルトイン家具を提供する事業が存在する。その取り組みの現状を調査・分析することで、「家具メーカーとの連携」が地域住宅生産者における市場競争力向上の一助となる可能性を示す。

題目：被災市街地における新規事業者が街に与える影響

—宮城県石巻市の中心市街地を対象として—

著者：秋山友希、佐藤布武

掲載：都市計画7361、pp.827-828

概要：東日本大震災から12年が経過し、復興事業が多く行われてきた。震災後、街には新たな人の流れが生まれ、それに伴い新たな活動が生まれ始めている。本稿では、被災市街地の復興における土地利用の変遷か

ら復興と新規事業者の関係を明らかにする。

題目：川上から川下の連携により住宅供給に関する研究

—産直住宅の存続と活動に着目して—

著者：西岡航生、石垣 文、角倉英明

掲載：建築社会システム8006、pp.11-12

概要：1980年頃に設立した産直住宅を機に川上から川下の様々な連携が行われているが、活動を持続させるのは難しい。産直住宅が現在どれだけ存続しているのか、存続している団体はどのような傾向があるのかを明らかにする。

題目：広島県における木造住宅の住宅性能と長期優良住宅の利用

木造住宅の長期利用を促す制度と評価のあり方に関する研究 その3

著者：綱島雄真、石垣 文、角倉英明、渡邊史郎、江口 亨

掲載：建築社会システム8041、pp.81-82

概要：長期優良住宅制度は2009年に開始されたが、認定割合は1/3程度に限られている。一方で、社会的な動向の変化により、住宅性能の向上が考えられる。本研究では認定を取得していない住宅を調査し住宅性能を明らかにした。

題目：DIYerの技術・技能習得におけるホームセンターの役割に関する研究

著者：濱野喜史、石垣 文、角倉英明

掲載：建築社会システム8045、pp.89-90

概要：空き家問題に加え、大工技能者の不足が叫ばれて久しい今日、趣味としてDIYによるセルフリノベーションを行う「DIYer」への期待が高まっている。本稿では、DIYer及びホームセンターへの調査をもとに、DIYerの技術・技能習得におけるホームセンターの役割について明らかにした。

題目：日本における木造建築の素材化手法に関する基礎的研究

—近年の建築専門誌における事例に着目して—

著者：山田紘平、角倉英明、石垣 文

掲載：建築社会システム8101、pp.201-202

概要：空き家の増加や人口減少を背景に建築ストックの活用や新たな都市のあり方を模索している日本において、今後現れるであろう住人のいな

い地域における建築ストックの再活用手法の知見を得るため、近年の木造建築の再活用（素材化）手法の実態と変容を明らかにした。

題目：広島県における畳生産に関する基礎的研究
製造のラインと工程に着目して

著者：竹熊 樹、石垣 文、角倉英明

掲載：建築社会システム8135、pp.269-270

概要：日本の伝統的な建材である畳は、近年の住宅の洋風化や人口減少による市場規模の縮小などの様々な要因により、その数を減らしつつある。本研究ではその畳の生産のプロセスに着目し、畳産業を維持・発展させるための基礎的な知見を得るものである。

題目：住宅リフォーム工事における日本と中国の工事プロジェクト体制に関する比較研究
—小規模工事を対象に—

著者：焦 子鈺、石垣 文、角倉英明

掲載：建築社会システム8145、pp.289-290

概要：リフォーム工事の見積金額には、元請け業者による不当な利益配分と下請け業者による高額な金額請求の二つの課題が存在している。本研究は日本と中国のリフォーム工事の施工会社の体制、工事の流れなどのリフォーム工事の全体像に着目し日中におけるリフォーム工事のプロジェクト体制を把握した。

題目：職業能力開発校における大工技能者の育成体制に関する研究
指導員および訓練生からみた職業能力開発校の役割と課題

著者：榎 優志、石垣 文、角倉英明

掲載：建築社会システム8152、pp.303-304

概要：大工技能者の不足が叫ばれて久しい今日、その代表的な育成機関である職業能力開発施設においても訓練生の著しい減少がみられる。本稿では、訓練校とその指導員および訓練生へのヒアリング調査をもとに、公立開発校と認定訓練校が果たす現状の役割と課題について明らかにした。

題目：暮らしのてづくり一戸建て住宅団地の解体と再生—

著者：佐藤更彩、石垣 文、角倉英明

掲載：建築デザイン14135、pp.270-271

概要：郊外に増加した戸建て住宅団地に発生するであろう空き家に対して、その資材を使った新たな空間を提案する。そこでは、都市部に住む人が生活の一部として、郊外の住宅団地を訪れ、衣食住にまつわる「てづくり」が行われる。

題目：こどもネスト 地域にこどもホスピスを重ねる

著者：濱崎礼菜、石垣 文、角倉英明

掲載：建築デザイン14247、pp.494-495

概要：難病を抱えるこどもたちが安心して過ごせる場所がこどもホスピスである。本計画ではこどもホスピスが地域と乖離していることに着目し、地域とこどもホスピスを重ね合わせて両者の間に新たな空間「こどもネスト」をつくり出す。

建築設計学：6名

題目：分譲集合住宅における和室の設置条件に関する試論

—近年の集合住宅における和室の設置状況および平面構成に関する研究 第7報—

著者：愛野礼央、横井浩志、原 汀、柴田 建

掲載：建築計画5474、pp.947-948

概要：本稿は、全国分譲集合住宅における動向と住居の構成要素から集合住宅の和室の有無について考察を行うものであり、先行研究同様、サンプル7,975件の収集を行い、平面構成と和室設置率の関係を読み取った。

題目：天泣で紡ぐ—遊緑民による砂漠緑化の提案—

著者：谷 卓思、中蘭哲也

掲載：建築デザイン14064、pp.128-129

概要：無縁に見える中国で起こる砂漠化と日本。実は服や食物を輸入することで同時に水を輸入し砂漠化を起こしている。中国では砂漠化防止のため伝統的な暮らしが失われつつある。そんな時遊緑民が立ち上がる。

題目：世界に小さな幸せの結晶を広げるソルトロード

世界航路・巨大船寄港場・巨大船の提案

著者：塚村遼也、中藺哲也

掲載：建築デザイン14076、pp.152-153

概要：新しい戦前、世界は激しく変動し人々は混沌とした時代を生きています。世界を繋いできた海からとれる塩は人間にとって大きな力を持っています。そんな塩を使って大きな世界を一つにしていく提案です。

題目：耕して天に至る―遊子水荷浦段畑の継承―

著者：松岡達哉、中藺哲也

掲載：建築デザイン14082、pp.164-165

概要：多くの雑草処理のためのマンパワーが不足している遊子水荷浦の段畑にヤギを放ち、作業環境の向上・負担の軽減・畑の継承のための人々の交流を生み出すため「段畑街道」を提案し、新たな景観として受け継ぐものである。

題目：おさんぽ工場

著者：高尾耕太郎

掲載：建築デザイン14085、pp.170-171

概要：広島県ファミリープール跡地の周辺環境および再開発の特異性をほどこ、そしてこれからの課題である AI 社会をテーマに、さんぽという行為が生み出す経験や設計コンセプトを手がかりにスタートアップ企業の集積オフィスを11エリア分提案する。

題目：眠る海に拓く―海上遺構を守りゆく慰霊公園の提案―

著者：隠崎 嶺、中藺哲也

掲載：建築デザイン14096、pp.192-193

概要：1942年、宇部の街をつくり、支えた海底炭鉱で落盤事故が起こり、183名が犠牲となった。遺骨は今もなお海底下の坑道に眠る。唯一の遺構、2基の鉄筋コンクリート造の排気口を守り、この地の歴史を伝える慰霊公園の提案を行う。

□ 2024年度建築学会大会（関東・明治大学）に参加して：計画系

72回 綱 島 雄 真



2024年度日本建築学会大会は、東京都千代田区に位置する明治大学駿河台キャンパスにて2024年8月27日から30日までの4日間にわたり開催されました。今大会のテーマは「建築と暮らす」です。これからの暮らし方を選ぶ岐路に立たされている現在、いまいちど暮らし、建築、そしてその両者の関係について、過去や現状を見つめ、未来の姿を描いていく、という問いかけでした。

今大会で私は「広島県における木造住宅の住宅性能と長期優良住宅の利用—木造住宅の長期利用を促す制度と評価のあり方に関する研究 その3—」について発表しました。全国の建築学生が集まる大会で発表を行うことは、初めての経験であり少し緊張しながら発表を行いました。発表後の質疑応答では、同分野の先生方や他大学の学生から、貴重なご意見・ご指摘をいただくことができ、住宅という暮らしに最も近い建築が今後どのように変化していくべきなのか、深く考えるきっかけとなりました。また、自分の発表を行っていない時間には、戸建住宅の分野だけでなく、空家問題についての研究や非専門家と建築との関わり合い方など、幅広い分野において他大学の学生・先生方、企業の方々の発表を聴講することで、自らの見識を広げることができました。

また、今大会の開催地である東京は、日本で最も大きな都市であり、数多くの名建築が存在しています。私自身大会の合間に、国立西洋美術館や東京カテドラル聖マリア大聖堂、国立新美術館など、国内外で活躍されている建築家の方々が設計された建築を訪問し、建築を学ぶ学生として、有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、私共の大会参加を支援して下さった建友会の皆様に深く感謝申し上げます。



学会の際に訪れた国立新美術館

□ 2024年度建築学会大会（関東・明治大学）に参加して：構造系

71回 竹内 翔 紀



明治大学駿河台キャンパスで開催された2024年度日本建築学会大会〔関東〕に8月28日から8月30日の3日間参加しました。私が所属する建築構造学研究室は、教員・学生あわせて6人で参加し、それぞれが1編ずつ発表しました。修士1年のときに参加した大会から1年ぶりの発表であったため、昨年のことを都度都度思い出しながらの参加となりました。今回の大会では「オイルダンパーを用いたローラー制振システムに関する研究」というタイトルで

発表し、昨年発表した研究とはセッションも異なる研究内容の発表であったため、新鮮な気持ちで臨むことができました。私の研究は修士1年の後輩と連番であったことに加え、鉄建建設株式会社との共同研究であったため、昨年より大きな緊張感や不安感を覚えました。その中、発表は無事に終わり、いくつかご質問やご意見をいただき、今後の研究を進めていくうえで重要な視点や考え方を発見できた有意義な時間となりました。

今年の大会では、初めて参加するセッションであったため、自分の研究に関連する他大学の方や企業の方の発表を聞き、研究の背景に対する課題解決のアプローチを学び、発表資料や発表方法など多くの学ぶ機会を与えていただきました。また、研究室の他のメンバーの発表を聞き、鋼構造の分野に精通した様々な研究者の発表を拝見することができ、体系的に鋼構造をとらえることのできる機会にもなりました。これからの研究では、今回の大会で得た経験を基に、多角的かつ広い視点で物事を考え、よりよい成果を上げられるよう精進していきます。

会場となった明治大学駿河台キャンパスの周辺は多くの飲食店があり、お昼休憩にラーメンやカレーなどを食べ、今まで味わったことのないおいしさを体感することができました。28日の夜には、大学近くの居酒屋に研究室のメンバーで研究の話だけでなく、プライベートな話で盛り上がり、仲も深めることができたように思います。そのあと、学生だけで夜の東京タワーを見に行き、昼間とは異なるライトアップされた姿が印象的でした。

今回の大会の日程は台風の影響が心配されており、30日の飛行機で帰る予定が、台風によるフライト中止で、1日宿泊日数を延長し、31日の飛行機で急遽帰ることになりました。台風の影響を受けたものの、トラブルも含めて

様々な思い出が残る2024年度日本建築学会大会となりました。

最後になりましたが、今回の大会で研究成果を発表する機会を与えてくださり、助言と指導を頂いた諸先生方、そして、大会参加旅費を援助していただいた建友会に厚くお礼申し上げます。

□ 新任理事自己紹介

72回 森 本 匠



この度、建友会第72回理事に就任いたしました、森本匠と申します。現在、私は広島大学大学院先進理工系科学研究科建築学プログラム博士課程前期に在籍し、都市・建築計画学研究室で田中先生、田村先生の下、研究活動に勤しんでおります。卒業研究では、緑地が持つ雨水浸透機能に着目し、都市の中に緑地を導入した際の洪水抑制効果を明らかにしました。近年、このように自然・緑地が持つ機能を社会課題解決に用いる考え方が「グリーンインフラ」

として注目されています。グリーンインフラは、グレイインフラと比べ比較的低予算で導入できること、洪水抑制機能以外にも熱環境緩和や良好な景観形成といった多様な機能を有するなど、様々なメリットがあることから、人口減少・高齢化に対応した持続可能な社会の形成に向けて重要な役割を果たす技術であると考えています。

今年度はこのような研究成果を対外的に発表できる機会が多い貴重な一年だと感じております。8月には建友会からのご支援を頂きながら日本建築学会大会（東京）で発表し、11月には都市計画学会（北九州）での発表を控えております。著名な先生方から様々な意見をいただき、他の発表者との交流を通して、自身の研究をブラッシュアップできる有意義な時間です。また、11月5日から7日にかけて開催される Urban Transition 2024（バルセロナ）は、私にとって初の国際学会となります。慣れない英語での発表は不安しかありませんが、自身の研究成果を上手く伝えられるよう、全力を尽くしてきます。

さて、大学生活を振り返ってみますと、入学当初（2020年）はコロナウイルスの影響で一人寂しく過ごす時間が多かったように思います。2年、3年になると対面での授業も増え、同期との楽しい学生生活を送れるようになりました。私たちは同期とのつながりの大切さを人一倍感じている代だと思います。また、研究室活動では、先輩方の丁寧な指導とサポートのおかげで日々成長を感じております。建友会はそのような同期、先輩・後輩のつながりを保てる貴重な会です。その建友会の理事を務められることを誇りに思うとともに、理事として精一杯努めていきますのでよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、広島大学建友会の益々のご発展並びに会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、新任理事の挨拶とさせていただきます。

3. 同窓生近況

□ 卒業後の近況について

71回 下 竹 雅 也

この度、建友会事務局様、第71回理事 柴田様より執筆依頼を頂き、同窓生近況へ寄稿させていただくことになりました。71回 下竹雅也と申します。

2023年3月に広島大学工学部を卒業の後、中国電力株式会社へ就職し、今年で社会人生活は2年目になりました。

学部時代は、建築防災学研究室に所属しており、人工衛星が取得した災害発生前後の対象地域における観測データを用い、深層学習モデルを適用させ、被害地域を抽出する研究を行っておりました。疑問点や不明点も多く、悪戦苦闘しながらの研究でしたが、三浦弘之教授のもと、何とかある程度の形にまとめて提出した記憶があります。また、当時の研究室の同期は個性が強いメンバーではありましたが、雰囲気は非常に良く、先生にまとめていただきながら、楽しく研究室生活を送った記憶があります。鈴木君、江口君、桑原君、また飲みに行きましょう。三浦先生とは現在も業務上でやり取りする機会も多くいただいております。今後ともよろしく願いいたします。

中国電力株式会社では、管財部門という部門に所属しており、建築関係の仕事を行っております。入社1年目は学生と社会人との違いに慣れない点も多く、業務では分からないことだらけであったため、不安な気持ちも多くありましたが、同期や周りの方に支えていただきながら過ごした1年目でした。また、今年度からは同じグループに後輩の方も入社され、身が引き締まる2年目となっております。現在の業務では、原子力発電所関係の業務に従事しております。業務においては細心の注意を払い、日々周りの方にご指導いただきながら仕事を進めております。原子力部門においては、直近では島根原子力発電所2号機の再稼働等もあり、今行っている業務、今後行う業務が最終的に再稼働など何らかの形で結果として現れることを実感した日々でもありました。そして、中国電力建築内には広大OBの方が多くおられるため、大変心強く、仕事も進めるうえで広島大学の卒業生で良かったなと感じることが多々あります。先日弊社にてインターンシップが開催されましたが、建築防災学研究室の学生さんにもご参加いただき、研究室OBとしては大変うれしく感じた出来事でした。

拙い文章で恐縮ですが、最後までお読みいただき、ありがとうございます。

末筆ではございますが、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

7. 広大建友会規約

(名称・所在)

第 1 条 この会は、広大建友会と称し、本部を東広島市鏡山1-4-1
広島大学工学部建築学教室内に置く。

(目的)

第 2 条 この会は、会員相互の親睦と連帯を図り、会員の社会発展に寄
与することを目的とする。

(事業)

第 3 条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 年1回総会および懇親会を開く。

(2) 年1回以上名簿を兼ねた会誌を発行する。ただし、隔年発行とすること
ができる。

(3) その他、この会の目的達成に必要な事項

(会員)

第 4 条 この会の入会資格者は、次のとおりとし、入会金納入者を正会
員とする。

(1) 正会員 広島大学工学部土木建築学専攻、同学部建築学科および同学
部第四類建築学課程・構造工学課程・地域工学課程・建築工学課程・居
住環境計画学課程もしくは建築プログラムの卒業生ならびに広島大学大
学院工学研究科建築学専攻、構造工学専攻、環境工学専攻、社会環境シ
ステム専攻、同大学院生物圏科学研究科環境計画科学専攻、同大学院国
際協力研究科開発科学専攻もしくは同大学院先進理工系科学研究科先進
理工系科学専攻建築学プログラムおよび理工学融合プログラムの建築系
の課程修了者。

(2) 参与会員 広島大学大学院工学研究科（建築構造学・建築計画学）お
よび広島大学大学院国際協力研究科（開発科学）の建築系教官。

(役員)

第 5 条 この会には、次の役員を置く。

(1) 会 長 1 名 (2) 副会長 若干名

(3) 理 事 各期若干名 (4) 監 事 2 名

(役員の選任)

第 6 条 役員は、次の各項の規定に従い、選任する。

(1) 会長候補者は、理事もしくは理事候補者の互選により定める。

- (2) 副会長候補者は、広島、東京、大阪の各支部長の職にあるものをもってあてる。
- (3) 理事は、各期毎に、卒業生のうちから1-2名づつその候補者を選出する。
- (4) 監事は、会員の中から数名を監事候補者とする。
- (5) 役員の任期は2年（ただし、補充により選任された場合については、前任者の残存期間）とし、総会の承認を得て、決定する。
- (6) 役員の再任は妨げない。

（役員の責務）

第 7 条 会長、副会長、理事および監事は、次に定める責務を遂行する。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を処理、監督する。また、理事会および総会の召集を行う。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その指名によって副会長のうち1名が会長職務を代行する。
- (3) 理事は、会務を処理すると共に、住所録の作製等、各期会員の取りまとめを行う。
- (4) 監事は、会務を監査する。また、理事会に出席して意見を述べることができる。

（理 事 会）

第 8 条 理事会は、総会に付議すべき事項を審議するほか、会務運営に関する事項について審議する。

（総 会）

第 9 条 定時総会は、毎会計年度の末日から60日以内に、また、臨時総会は、必要に応じて、それぞれ、開催する。

（名誉会長・顧問）

第 10 条 本会に名誉会長、顧問をおくことができる。名誉会長は、広島大学工学部建築学教室の主任教授をもってあてる。顧問は、本会の会長を務めた者をもってあてる。顧問は、会長経験者として、意見を述べる。

（終身会員・名誉会員）

第 11 条 入会後40年以上を経過し、かつこの間を含め50年分の年会費を完納した正会員を、終身会員とする。また、本会の目的達成に顕著な貢献をした終身会員もしくは年会費10年分以上の寄付を行った終身会員には、理事会の推薦により、名誉会員の称号を贈る。終身会員、名誉会員の会費は、これを免除する。

(会 計)

第 12 条 この会の経費は、会費・寄付金の収入をもって支弁する。収支決算は、監事の意見をつけて毎年総会において承認を受ける。この会計年度は、1月1日に始まり、12月31日に終る。

(支部の設置)

第 13 条 多数の在住会員をもつ遠隔の地方には、会員の要望により支部を設置する。この場合は、所在地・支部長を本部に報告する。但し、支部の運営については、当該支部で定める。

(規約の変更・その他)

第 14 条 この会の規約の変更は、総会において、出席者の過半数の賛成を得て決定する。また、この規約に必要な内規は、理事会に諮り定める。

慶 弔 規 定

会員の死亡の場合 香 料 10,000円

参与会員の死亡 香 料 10,000円および生花一對

旧教官の死亡 同 上

勤続10年以上の参与会員の退官

記念品 (50,000円相当)

上記以外の参与会員の退官

記念品 (30,000円以内相当)

旧教官の総会への招待 開催地における年長旧教官より数名を、順次招待する。

8. 編集後記

- 建友会誌 Vol.67をお届けします。ここ何回かの総会や理事会で取り上げてきた建友会の抱える諸問題について、とりあえず2024年度の理事会にて今後の方向性についてご承認をいただきました。2025年度の総会の議論如何ではありますが、無事、承認されますと建友会誌や名簿のあり方が大きく変わる予定です。多くの会員の皆様方には是非、関心をもって理事会報告をご確認いただき、総会にご出席いただければ幸いです。
- 2025年度総会は大阪での開催です。京阪神にお住いの多くの方にお会いできるのを私自身も大変楽しみにしております。一人でも多くの方にご出席いただけるよう、ご自身のみならず同窓の皆様方にも是非、お声がけ下さい。盛会となりますよう、ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

(事務局長 西名大作 令和6年11月15日記)

- あっという間に建友会誌の編集作業の時期がやってきました。年を取るにつれて、時が経つのが実に早く感じられるようになってしまいました。なんとか年内中に会員の皆様へ発送できるよう、編集作業の追い込みを行っています。
- 昨年度の理事会では、建友会のホームページ立ち上げ、名簿管理業務の外部委託、建友会事務作業員の雇用、建友会誌への名簿掲載の取り止めを認めていただきましたが、2025年度の総会で最終的に会員の皆様のご意見を頂くことになろうかと思います。忌憚のない意見交換ができればと思っております。
- 広島大学の教員として着任し、大阪での総会に初めて参加します。大阪支部の皆様にお会いできることをとても楽しみにしております。

(建友会事務局理事 中藺哲也 令和6年12月3日記)

- 建友会誌の編集では、同窓生近況の原稿および名簿情報の更新について担当しています。昨年と同じことをここに書かせていただいたような気がするのですが、私の職場環境が変わり、建友会の事務局業務において十分な対応が出来ておらずご迷惑をおかけしております。建友会の縦横のつながりを大切にしていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(建友会事務局理事 高田 宏 令和6年12月6日記)

- 建友会誌の編集では、「寄稿」における在学生の原稿等を担当させていただいております。2024年度の建友会理事会では、これまで議論を進めてきました、建友会誌やホームページ作成等の様々な議題について、理事の皆様と議論させていただきました。これを機に建友会の運営のあり方も少しずつ変わっていくことあると思いますが、これからも皆様から頂戴した意見を考慮しながら、建友会の運営に携わっていきたいと考えておりますので、引き続き今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

(建友会事務局理事 田村将太 令和6年11月29日記)

広大建友会事務局

西名 大作 (31回：大学院先進理工系科学研究科	TEL (082) 424-7838)
松本 慎也 (43回：近畿大学工学部建築学科	TEL (082) 434-7000)
中藺 哲也 (43回：大学院先進理工系科学研究科	TEL (082) 424-7834)
高田 宏 (47回：広島工業大学環境学部	TEL (082) 921-9104)
光井 周平 (54回：広島工業大学環境学部	TEL (082) 921-5413)
田村 将太 (63回：大学院先進理工系科学研究科	TEL (082) 424-7866)

9. 広告案内

[1 ページ広告]

- 1 総合資格学院／株式会社総合資格
- 2 日建学院／株式会社建築資料研究社

[50音順]

掲載料	1 ページ広告 (A 5 サイズ)	50,000円
	1/2ページ広告 (名刺 2 枚分)	30,000円
	1/4ページ広告 (名刺 1 枚分)	20,000円

広告掲載に関するお問い合わせは建友会事務局まで

担当 光井 周平

(54回・広島工業大学 環境学部 建築デザイン学科)

電話／FAX (082) 921-5413

E-mail s.mitsui.hu@cc.it-hiroshima.ac.jp

私の選択は 間違っ て なかった

選んだのは、合格者の50%以上が
進んだ王道ルートでした。



令和4年度 一級建築士合格

総合資格学院のおかげで人生変わりました。

総合資格学院イメージキャラクター

令和4年度 一級建築士試験合格

当学院受講生・俳優

田中 道子さん

v12

広島県 12年連続
1級建築士合格実績

No.1

令和5年度 1級建築士 設計製図試験

広島県
合格者
占有率

56.0%

広島県合格者84名中 / 当学院当年度受講生47名

令和5年度 1級建築士 学科+設計製図試験

広島県
ストレート
合格者占有率

54.5%

広島県ストレート合格者22名中 / 当学院当年度受講生12名

※都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和5年度1級建築士学科試験に合格し、令和5年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和5年12月25日現在)

令和7年度
試験対策

1・2級建築士 受講生募集中

無料 体験入学会・講座説明会 実施中!!

開講講座 1級・2級 建築士/建築・土木・管工事施工管理技士/設備・構造設計1級建築士/
建築設備士/宅建士/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

法定講習 監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/
宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習



総合資格学院



スクールサイト www.shikaku.co.jp [総合資格 | 検索]

コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp

X ⇒ [shikaku_sogo] LINE ⇒ [総合資格学院]

Instagram ⇒ [sogoshikaku_official] で検索!

広島校 TEL:082-542-3811

福山校 TEL:084-991-3811

「受講者の方々との繋がりが大きな財産。 社会に貢献できる人材育成のため、親身な支援を続けていきたい」



Company Profile

【住 所】〒171-0014
東京都豊島区池袋 2-50-1
【T E L】0120-243-229（代表）
【M a i l】nikken@to.ksknet.co.jp
【事業内容】建築士など資格取得の教育機関・日建学院運営、派遣業務、教材提供など
【沿革など】昭和44年創立
【ホームページ】<http://www.ksknet.co.jp>

建築業界では、建築士をはじめとする多くの専門の資格が必要とされます。学生の方もいづれは資格取得を目指される方も多いでしょう。仕事をしながら、あるいは様々な理由を抱えながら資格を取る事は非常に大変です。当社としては、少しでも多くの方が合格され夢を叶えて頂きたいですし、そうすることで建築業界のさらなる発展に繋がってくれればと思っています。近年では建築業界の人材不足が懸念されています。当社では新しい取り組みとして、地場大手建設企業の新人研修のサポート事業も手がけ、今後も建設産業の基礎的な知識を教育する初期研修や社員研修をサポートしていきます。

まだ日建学院を通じて建築士、宅建、各種施工管理などの資格を取得した多くの方々です。OBの方々の中には、企業の経営を担っている方も多く、また親の代から引き続き日建学院に通っていただき、資格を取得している方も沢山います。そうした繋がりを大切にできる企業でありたいと常に思っています。皆さんは日本建築文化を持続発展させるために必要不可欠な存在です。建築を通して未来の日本が豊かで幸せな暮らしを築いていけるよう、私たちもあらゆる面からサポートしていきたいと思っています。



大学生の1級建築士合格者の多くが日建学院生です！



2023年度
（令和5年度）

大学別占有率

関西学院大学 占有率 81.8% 日建学院合格者数 9名 / 合格者数 11名	熊本県立大学 占有率 80.0% 日建学院合格者数 8名 / 合格者数 10名
京都建築大 占有率 72.0% 日建学院合格者数 18名 / 合格者数 25名	東洋大学 占有率 69.0% 日建学院合格者数 20名 / 合格者数 29名
日本工業大学 占有率 64.3% 日建学院合格者数 9名 / 合格者数 14名	日本女子大学 占有率 63.6% 日建学院合格者数 14名 / 合格者数 22名
近畿大学 占有率 61.5% 日建学院合格者数 40名 / 合格者数 65名	千葉大学 占有率 60.8% 日建学院合格者数 31名 / 合格者数 51名
滋賀県立大学 占有率 60.0% 日建学院合格者数 6名 / 合格者数 10名	名古屋市立大学 占有率 60.0% 日建学院合格者数 6名 / 合格者数 10名
	慶應義塾大学 占有率 64.3% 日建学院合格者数 9名 / 合格者数 14名
	九州工業大学 占有率 61.5% 日建学院合格者数 8名 / 合格者数 13名
	九州大学 占有率 60.5% 日建学院合格者数 26名 / 合格者数 43名
	武庫川女子大学 占有率 60.0% 日建学院合格者数 12名 / 合格者数 20名

※上記数値に無料の役務提供者及び、模擬試験などの受講生は含まれておりません。※2024年1月13日時点での日建学院独自調べによるものです。

あなたの夢、応援します。

日建学院

開校以来、建築士・宅建士・各種施工管理技士

合格者輩出数

60万人突破！

着実に効率よく頑張りを成果に結びつける
その結果が揺るぎない合格率に直結します

日建学院コールセンター ☎ 0120-243-229

株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1 受付/AM10:00～PM5:00(土・日・祝日は除きます)